

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局



(43) 国際公開日
2011年6月3日(03.06.2011)

PCT

(10) 国際公開番号
WO 2011/065285 A1

- (51) 国際特許分類:
G06F 3/048 (2006.01) G06F 13/00 (2006.01)
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2010/070600
- (22) 国際出願日: 2010年11月18日(18.11.2010)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:
特願 2009-268800 2009年11月26日(26.11.2009) JP
特願 2009-268803 2009年11月26日(26.11.2009) JP
- (71) 出願人(米国を除く全ての指定国について): 楽天株式会社(Rakuten, Inc.) [JP/JP]; 〒1400002 東京都品川区東品川四丁目1番3号 Tokyo (JP).
- (72) 発明者: および
- (75) 発明者/出願人(米国についてのみ): 高見 真也 (TAKAMI Shinya) [JP/JP]; 〒1400002 東京都品川区

東品川四丁目1番3号 楽天株式会社内
Tokyo (JP).

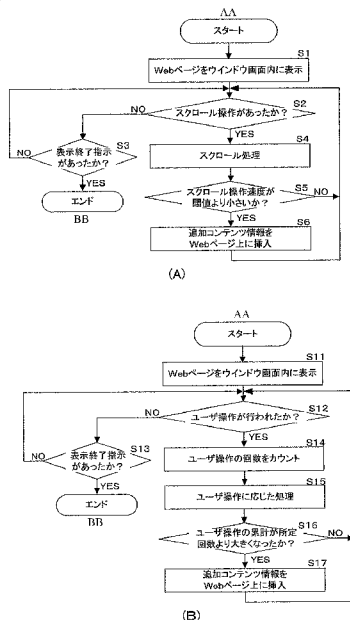
- (74) 代理人: 特許業務法人 インテクト国際特許事務所, 外 (INTECT INTERNATIONAL PATENT OFFICE et al.); 〒1020083 東京都千代田区麹町四丁目7番2号 サンライン第7ビル4階 Tokyo (JP).
- (81) 指定国(表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IS, KE, KG, KM, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PE, PG, PH, PL, PT, RO, RS, RU, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.

[続葉有]

(54) Title: SERVER APPARATUS, TERMINAL APPARATUS, METHOD FOR INSERTING INFORMATION INTO WEB PAGE, INFORMATION INSERTION PROGRAM, AND RECORDING MEDIUM WITH PROGRAM RECORDED THEREIN

(54) 発明の名称: サーバ装置、端末装置、Webページ上への情報挿入方法、情報挿入プログラム、及びプログラムが記録された記録媒体

[図4]



S1, S11... DISPLAY WEB PAGE WITHIN WINDOW SCREEN
S2... ANY SCROLLING OPERATION?
S3, S13... ANY INSTRUCTION GIVEN TO END DISPLAY?
S4... SCROLL PROCESSING
S5... SCROLL OPERATION SPEED SLOWER THAN THRESHOLD VALUE?
S6, S17... INSERT ADDITIONAL CONTENT INFORMATION ONTO WEB PAGE
S12... ANY USER OPERATION?
S14... COUNT NUMBER OF USER OPERATION
S15... PROCESSING ACCORDING TO USER OPERATION
S16... HAS ACCUMULATED NUMBER OF USER OPERATION EXCEEDED PRESCRIBED NUMBER?
AA... START
BB... END

(57) Abstract: Provided is a server apparatus that transmits a web page to a terminal apparatus via a network, and monitors information about user operation conducted upon the web page displayed on the terminal apparatus. The server apparatus also evaluates whether the user operation information being monitored satisfies a prescribed condition, and when the condition is evaluated as being satisfied, inserts insertion information at a prescribed displaying position of the web page being displayed on the terminal apparatus.

(57) 要約: 本願のサーバ装置は、端末装置へネットワークを介してWebページを送信し、前記端末装置に表示された前記Webページに対するユーザ操作情報を監視する。そして、サーバ装置は、監視しているユーザ操作情報が所定の条件を満たしているか否かを判定し、条件を満たしていると判定した場合に、端末装置に表示されているWebページ上の所定の表示位置に挿入情報を挿入させる。

WO 2011/065285 A1



(84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI

(BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

— 国際調査報告 (条約第 21 条(3))

明 細 書

発明の名称：

サーバ装置、端末装置、Webページ上への情報挿入方法、情報挿入プログラム、及びプログラムが記録された記録媒体

技術分野

[0001] 本発明は、インターネット上のWebサイトから提供されるWebページ上で効率的に情報を表示する技術の分野に関する。

背景技術

[0002] インターネット上には多数のWebサイトが存在し、これらのWebサイトによって多種多様な情報が公開されている。インターネットに接続されたユーザ端末は、WebブラウザによりWebサイトのURL (Uniform Resource Locator) を指定することで該Webサイトにアクセスし、該Webサイトから提供されたWebページを表示可能になっている。これにより、ユーザ端末のユーザは、Webサイトから提供されたWebページを閲覧することができる。

[0003] また、Webページに表示された情報に関連する関連情報を効率良く閲覧させるため、当該関連情報を表示するWebページへ誘導するためのリンクを自動的に設定する技術が知られている。例えば、特許文献1には、ユーザ端末から取得した発言データを形態素分析し、該発言データ中に含まれている単語に商品名が一致する時は、その商品名に対応する商品情報を表示するための商品ページへのリンクを、その単語に設定する技術が開示されている。この技術によれば、より簡単に商品広告ページへのリンクをWebページ上に設定することができ、かつ、より効果的にユーザによるクリックを誘導できる。

先行技術文献

特許文献

[0004] 特許文献1：特開2004-295267号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

- [0005] ところで、上述したように、関連情報を表示させるためのリンクを設定する技術では、ユーザは当該関連情報を実際に表示させるために、リンクを指定する操作を行う必要があり煩雑である。また、あくまで形態素解析等の分析手法に基づいて抽出されたキーワードに対する関連情報へのリンクであるため、必ずしも当該閲覧中のWebページの運営者の意図した情報が表示されるわけではない。また、リンクを指定することによりWebページが遷移したり、別ウインドウが開いたりするので前記Webページと関連情報とを精読するためには「戻るボタン等」のブラウザの遷移操作、別ブラウザのタブの選択操作及びブラウザの表示サイズの調整操作等の煩雑な操作をユーザに要求するため、ユーザは心理的に当該操作をためらってしまう可能性もある。そのため、同一ページ内に関連情報や詳細情報を表示することが効率的であるケースも多い。
- [0006] しかしながら、Webページの情報に関心が低いユーザに対して、初めから該Webページに表示される情報量が多い場合、ユーザは、重要な情報を読み飛ばしてしまうという問題があった。逆に、Webページの情報に関心が高いユーザに対して、初めから該Webページに表示される情報量が少ない場合、ユーザは、自身で関連情報や詳細情報を収集する手間が生じるという問題があった。
- [0007] また、従来の技術では、Webページに表示された複数の情報の中でのどの情報に、ユーザが関心を持っているかどうかを判断することは困難であった。特に、Webページに表示される情報が動画像の場合、当該動画像に係る動画データが最後まで再生されたときに、ユーザは当該動画像の内容に関心があったか、或いは関心がないので放置したのかを把握することは困難であった。
- [0008] 本発明は、以上の問題等に鑑みてなされたものであり、Webページの情報に関心が低いユーザとWebページの情報に関心が高いユーザとの双方に

対して、より効率良くWebページ上で情報を閲覧させることが可能なサーバ装置、端末装置、Webページ上への情報挿入方法、情報挿入プログラム、及びプログラムが記録された記録媒体を提供することを課題とする。また、本発明は、Webページ上に表示された動画像の内容に関心が低いユーザとWebページ上に表示された動画像の内容に関心が高いユーザとの双方に対して、より効率良くWebページ上で情報を閲覧させることが可能なサーバ装置、端末装置、Webページ上への情報挿入方法、情報挿入プログラム、及びプログラムが記録された記録媒体を提供することを課題とする。

課題を解決するための手段

[0009] 上記課題を解決するために、請求項1に記載の発明は、端末装置がネットワークを介してアクセス可能なサーバ装置であって、前記端末装置へWebページを送信する送信手段と、前記端末装置に表示された前記Webページに対するユーザ操作情報を監視する監視手段と、前記監視しているユーザ操作情報が所定の条件を満たしているか否かを判定する条件判定手段と、前記条件判定手段により前記条件を満たしていると判定された場合に、前記端末装置に表示されているWebページ上の所定の表示位置に挿入情報を挿入させる挿入手段と、を備えることを特徴とする。この発明によれば、Webページの情報に関心が低いユーザとWebページの情報に関心が高いユーザとの双方に対して、より効率良くWebページ上で情報を閲覧させることができる。

[0010] 請求項2に記載の発明は、請求項1に記載のサーバ装置において、前記ユーザ操作情報が前記表示されているWebページのスクロール操作速度であることを特徴とする。この発明によれば、ユーザによる1回のスクロール操作で、当該ユーザがWebページの情報に関心が高いか低いかを迅速に判定することができる。

[0011] 請求項3に記載の発明は、請求項1に記載のサーバ装置において、前記ユーザ操作情報が前記表示されているWebページのスクロール、クリック、タップ、表示サイズの変更などのユーザ操作の回数であることを特徴とする

。この発明によれば、当該ユーザがWebページの情報に関心が高いか低いかを、精度良く判定することができる。

[0012] 請求項4に記載の発明は、請求項1に記載のサーバ装置において、前記ユーザ操作情報が前記表示されているWebページのスクロールの停止操作であることを特徴とする。この発明によれば、ユーザによる1回のスクロールの停止操作で、当該ユーザがWebページの情報に関心が高いか低いかを迅速に判定することができる。

[0013] 請求項5に記載の発明は、請求項4に記載のサーバ装置において、前記挿入手段は、前記スクロールの停止操作によりスクロールが停止された時にWebページ上に表示されている情報に関連する前記挿入情報を挿入させることを特徴とする。この発明によれば、ユーザのより関心が高い挿入情報を該ユーザに閲覧させることができる。

[0014] 請求項6に記載の発明は、請求項1乃至5の何れか1項に記載のサーバ装置において、複数の前記挿入情報を記憶する記憶手段を更に備え、各前記挿入情報には前記Webページ上に表示する表示順番が付与されており、前記挿入手段は、前記各挿入情報に付与された表示順番に基づいて、前記各挿入情報を順次挿入させることを特徴とする。この発明によれば、サーバ装置の運営者側で決定した表示順序で挿入情報を表示させることができる。

[0015] 請求項7に記載の発明は、請求項1乃至6の何れか1項に記載のサーバ装置において、前記条件判定手段により前記条件を満たしていると判定された場合に、前記Webページ上に現在表示されている情報のデータ種別を判定するデータ種別判定手段を更に備え、前記挿入手段は、複数の前記挿入情報の中から、前記判定されたデータ種別に対応する前記挿入情報を選定し、当該選定した挿入情報を挿入させることを特徴とする。この発明によれば、ユーザが最も好むデータ種別で挿入情報を表示することができる。

[0016] 請求項8に記載の発明は、請求項1又は2に記載のサーバ装置において、前記端末装置に表示されているWebページ上に表示する動画データを前記端末装置へ送信する第2送信手段と、前記端末装置において再生された前記

動画データの再生終了を検出する再生終了検出手段と、を更に備え、前記条件判定手段は、前記監視手段により監視されているユーザ操作情報に基づいて、前記再生終了検出手段により前記再生終了が検出されてから所定時間内にユーザ操作が有ったか否かを判定し、前記挿入手段は、前記条件判定手段により前記ユーザ操作が有ったと判定された場合に、前記挿入情報を挿入させることを特徴とする。この発明によれば、Web ページ上に表示された動画像の内容に関心が低いユーザとWeb ページ上に表示された動画像の内容に関心が高いユーザとの双方に対して、より効率良くWeb ページ上で情報を閲覧させることができる。

[0017] 請求項 9 に記載の発明は、請求項 8 に記載のサーバ装置において、前記挿入手段は、前記動画データに関連する前記挿入情報を挿入させることを特徴とする。この発明によれば、ユーザが最も好む挿入情報をユーザに閲覧させることができる。

[0018] 請求項 10 に記載の発明は、端末装置がネットワークを介してアクセス可能なサーバ装置におけるWeb ページ上への情報挿入方法であって、前記サーバ装置が、前記端末装置へWeb ページを送信するステップと、前記サーバ装置が、前記端末装置に表示された前記Web ページに対するユーザ操作情報を監視するステップと、前記サーバ装置が、前記監視しているユーザ操作情報が所定の条件を満たしているか否かを判定するステップと、前記サーバ装置が、前記条件を満たしていると判定された場合に、前記端末装置に表示されているWeb ページ上の所定の表示位置に挿入情報を挿入させるステップと、を含むことを特徴とする。

[0019] 請求項 11 に記載の発明は、端末装置がネットワークを介してアクセス可能なコンピュータを、前記端末装置へWeb ページを送信する送信手段、前記端末装置に表示された前記Web ページに対するユーザ操作情報を監視する監視手段、前記監視しているユーザ操作情報が所定の条件を満たしているか否かを判定する条件判定手段、及び、前記条件判定手段により前記条件を満たしていると判定された場合に、前記端末装置に表示されているWeb ペ

ージ上の所定の表示位置に挿入情報を挿入させる挿入手段として機能させることを特徴とする情報挿入プログラム（コンピュータ読み取り可能なプログラム）である。

[0020] 請求項 1 2 に記載の発明は、端末装置がネットワークを介してアクセス可能なコンピュータを、前記端末装置へ Web ページを送信する送信手段、前記端末装置に表示された前記 Web ページに対するユーザ操作情報を監視する監視手段、前記監視しているユーザ操作情報が所定の条件を満たしているか否かを判定する条件判定手段、及び、前記条件判定手段により前記条件を満たしていると判定された場合に、前記端末装置に表示されている Web ページ上の所定の表示位置に挿入情報を挿入させる挿入手段として機能させる情報挿入プログラムが記録された記録媒体である。

[0021] 請求項 1 3 に記載の発明は、ネットワークを介してサーバ装置にアクセス可能な端末装置であって、前記サーバ装置から Web ページを取得する第 1 取得手段と、前記サーバ装置から前記 Web ページ上に挿入すべき挿入情報を取得する第 2 取得手段と、前記取得された Web ページを表示する表示手段と、前記表示されている Web ページに対するユーザ操作情報を監視する監視手段と、前記監視しているユーザ操作情報が所定の条件を満たしているか否かを判定する条件判定手段と、前記条件を満たしていると判定された場合に、前記表示されている Web ページ上の所定の表示位置に前記挿入情報を挿入する挿入手段と、を備えることを特徴とする。

[0022] 請求項 1 4 に記載の発明は、ネットワークを介してサーバ装置にアクセス可能なコンピュータを、前記サーバ装置から Web ページを取得する第 1 取得手段、前記サーバ装置から前記 Web ページ上に挿入すべき挿入情報を取得する第 2 取得手段、前記取得された Web ページを表示する表示手段、前記表示されている Web ページに対するユーザ操作情報を監視する監視手段、前記監視しているユーザ操作情報が所定の条件を満たしているか否かを判定する条件判定手段、及び、前記条件を満たしていると判定された場合に、前記表示されている Web ページ上の所定の表示位置に前記挿入情報を挿入

する挿入手段として機能させることを特徴とする端末処理プログラムである。

[0023] 請求項 15 に記載の発明は、ネットワークを介してサーバ装置にアクセス可能なコンピュータを、前記サーバ装置から Web ページを取得する第 1 取得手段、前記サーバ装置から前記 Web ページ上に挿入すべき挿入情報を取得する第 2 取得手段、前記取得された Web ページを表示する表示手段、前記表示されている Web ページに対するユーザ操作情報を監視する監視手段、前記監視しているユーザ操作情報が所定の条件を満たしているか否かを判定する条件判定手段、及び、前記条件を満たしていると判定された場合に、前記表示されている Web ページ上の所定の表示位置に前記挿入情報を挿入する挿入手段として機能させる端末処理プログラムが記録された記録媒体である。

発明の効果

[0024] 本発明によれば、Web ページの情報に関心が低いユーザに対しては提示する情報を少なくすることで重要な情報の読み飛ばしを少なくできる一方、Web ページの情報に関心が高いユーザに対しては提示する情報を追加していくことでユーザ自身が関連情報や詳細情報を収集する手間を省くことができる。よって、Web ページの情報に関心が低いユーザと Web ページの情報に関心が高いユーザとの双方に対して、より効率良く Web ページ上で情報を閲覧させることができる。

[0025] また、本発明によれば、Web ページ上に表示された動画像の内容に関心が低いユーザに対しては提示する情報を少なくできる一方、Web ページ上に表示された動画像の内容に関心が高いユーザに対しては提示する情報を追加していくことでユーザ自身が関連情報や詳細情報を収集する手間を省くことができる。よって、Web ページ上に表示された動画像の内容に関心が低いユーザと Web ページ上に表示された動画像の内容に関心が高いユーザとの双方に対して、より効率良く Web ページ上で情報を閲覧させることができる。

図面の簡単な説明

[0026] [図1]本実施形態に係る情報提供システムSの概要構成の一例を示す図である。

[図2]本実施形態に係る情報提供サーバ1の概要構成の一例を示すブロック図である。

[図3]ユーザ端末2の概要構成例を示すブロック図である。

[図4]第1実施形態におけるWebページ表示処理を示すフローチャートである。

[図5]追加コンテンツ情報がWebページ上に挿入される様子を示す図である。

[図6]複数の追加コンテンツ情報がWebページ上に順次挿入される様子を示す図である。

[図7]第1実施形態におけるWebページ表示処理を示すフローチャートである。

[図8]第2実施形態におけるWebページ表示処理を示すフローチャートである。

[図9]動画データの再生終了後に追加コンテンツ情報が挿入される様子を示す図である。

発明を実施するための形態

[0027] 以下、図面を参照して本発明の実施形態について説明する。なお、以下に説明する実施の形態は、情報提供システムに対して本発明を適用した場合の実施形態である。

[0028] 先ず、本発明の一実施形態に係る情報提供システムSの構成及び概要機能について、図1を用いて説明する。

[0029] 図1は、本実施形態に係る情報提供システムSの概要構成の一例を示す図である。図1に示すように、情報提供システムSは、情報提供サーバ1（サーバ装置の一例）と、ネットワークNWを介して情報提供サーバ1にアクセス可能なユーザ端末2（端末装置の一例）と、を含んで構成されている。な

お、図 1 の例では、説明の便宜上、1 つのユーザ端末 2 を示しているが、ユーザ端末 2 はユーザ毎に多数存在する。

[0030] 情報提供サーバ 1 と、ユーザ端末 2 とは、ネットワーク NW を介して、例えば、通信プロトコルに TCP/IP 等を用いて相互にデータの送受信が可能になっている。なお、ネットワーク NW は、例えば、インターネット、専用通信回線（例えば、CATV（Community Antenna Television）回線）、移動体通信網（基地局等を含む）、及びゲートウェイ等により構築されている。

[0031] このような構成の情報提供システム S において、情報提供サーバ 1 は、例えば、各種の情報やサービス等を提供する情報提供サイトを運営するために設置された Web サーバ（または、Web サーバ及びストリーミングサーバ）等から構成される。この情報提供サーバ 1 は、ユーザ端末 2 からの HTTP（Hyper Text Transfer Protocol）リクエストに応じて Web ページをユーザ端末 2 に送信する。そして、ユーザ端末 2 は、Web ブラウザにより、例えば、受信された Web ページをディスプレイ上に表れたウィンドウ画面内に表示する。なお、当該ウィンドウ画面は Web ブラウザのアクティブな表示領域であり、全画面表示の場合、アクティブな表示領域は全画面となる。また、Web ブラウザのウィンドウ画面の表示サイズは、ユーザ操作により変更可能である。

[0032] こうして表示された Web ページ上には、例えば、テキスト、静止画像、及び動画像等の少なくとも何れか一つから構成されるコンテンツ情報が表示される。特に、例えば商品やサービス等の概要（必要最低限の情報）等を表すコンテンツ情報を、以下、「基本コンテンツ情報」という。そして、上記ウィンドウ画面内に Web ページの一部表示領域が収まりきれない場合、ユーザ端末 2 の Web ブラウザは、表示されている Web ページに対するユーザによるスクロール操作に応じて、ウィンドウ画面内で Web ページの表示領域を、水平方向、垂直方向又は斜め方向にスクロール（移動）させる。1 回のスクロールは、スクロール操作の開始からスクロール操作の終了までで

ある。また、スクロール操作の終了は、例えばスクロール操作が所定時間（例えば、0.5秒間）無い場合に検出される。ここで、ユーザによるスクロール操作の例としては、ユーザがマウス（ユーザ端末1の操作部）のホイール（左右ボタンの間にあるボタン）を回転させること、ユーザがウィンドウ画面近傍に表示されたスクロールバーをマウスのドラッグ機能により移動させること、ユーザがキーボード（ユーザ端末1の操作部）の上、下、左、又は右キーを押下すること、ユーザがマウス等のポインティングデバイスを利用してウィンドウ画面をドラッグしてアクティブな表示領域を任意の方向に移動すること、及びユーザがタッチパネル式のウィンドウ画面上をフリック（例えば、指で軽く払う）すること、などが挙げられる。

[0033] 更に、本実施形態においては、ウィンドウ画面に表示されているWebページに対するユーザ操作情報が所定の条件を満たしている場合、上記基本コンテンツ情報に関連する関連情報や当該基本コンテンツ情報の詳細情報等が該Webページ上の所定の表示位置に挿入されるようになっている。

[0034] ここで、ユーザ操作情報の例としては、ウィンドウ画面に表示されているWebページが、ユーザによるスクロール操作に応じてスクロールしたときのスクロール操作速度が挙げられる。また、ユーザ操作情報の他の例としては、ユーザ操作の回数が挙げられる。このユーザ操作としては、例えば、上記スクロール操作、画面に表示されたポインタの移動（マウスによる）操作、タッチパネル式のディスプレイへの近接又は接触（ユーザの指やペン等）、クリック、タップ、ウィンドウ画面の表示サイズの変更操作などが挙げられる。なお、「クリック」とは、一般に、ウィンドウ画面に表示されているWebページ上の所定の位置（例えば、リンク等）がマウスで指定されるユーザ操作である。また、「タップ」とは、タッチパネル式のウィンドウ画面に表示されているWebページ上の所定の位置（例えば、リンク等）がユーザの指等で指定されるユーザ操作である。また、ウィンドウ画面の表示サイズの変更操作の例としては、例えば、ウィンドウ画面の近傍に表示されたサイズ変更ボタン（変形、拡大、縮小等に対応するボタン）のクリック（又は

タップ)、ウインドウ画面の端部のドラック&シフト、ウインドウ画面に接触した2本の指を近づけたり遠ざけたりする操作等が挙げられる。

[0035] また、基本コンテンツ情報に関連する関連情報としては、例えば、基本コンテンツ情報に示される商品に関連する他の商品を推奨するための Recommend 情報等が挙げられる。また、基本コンテンツ情報の詳細情報としては、基本コンテンツ情報に示される商品についてより詳しく説明した情報等が挙げられる。基本コンテンツ情報に関連する関連情報及び基本コンテンツ情報の詳細情報を「追加コンテンツ情報」(挿入情報の一例)という。

[0036] なお、追加コンテンツ情報は、Web ページに対するユーザ操作情報が所定の条件を満たしていない場合、Web ページ上に表示されないが、基本コンテンツ情報は、Web ページのスクロール操作速度に関わらず Web ページ上に表示される。

[0037] また、本実施形態においては、Web ページに表示される動画像に係る動画データの再生が開始され当該動画データの再生が終了した場合に、その再生終了時点から所定時間内にユーザ操作があったとき、該 Web ページ上の所定の表示位置に追加コンテンツ情報(挿入情報の一例)が挿入されるようになっている。この場合の追加コンテンツ情報は、例えば動画データに関連する関連情報である。この関連情報としては、例えば、動画データに係る動画像上に表れる商品やサービスの詳細情報、及び当該動画像上に表れる商品やサービスに関連する他の商品やサービスを推奨するための Recommend 情報等が挙げられる。

[0038] 次に、情報提供サーバ1の構成及び機能について、図2を用いて説明する。

[0039] 図2は、本実施形態に係る情報提供サーバ1の概要構成の一例を示すブロック図である。図2に示すように、情報提供サーバ1は、通信部11と、記憶部12と、入出力インターフェース部13と、システム制御部14と、を備えている。そして、システム制御部14と入出力インターフェース部13とは、システムバス15を介して接続されている。

- [0040] 通信部 11 は、ネットワーク NW に接続して、ユーザ端末 2 との通信状態を制御するようになっている。
- [0041] 記憶部 12 は、例えば、ハードディスクドライブ等により構成されており、オペレーティングシステム及び情報提供プログラム（本発明の情報挿入プログラムを含む）等の各種プログラムを記憶する。なお、本発明の情報提供プログラムは、例えば、所定のサーバ等からネットワーク NW を介して取得（ダウンロード）されるようにしても良いし、CD（Compact Disc）、DVD（Digital Versatile Disc）等の記録媒体に記録されてドライブ部 24 を介して読み込まれるようにしても良い。
- [0042] また、記憶部 12 には、ユーザ端末 2 に提供する Web ページを構成する構造化文書（例えば、HTML（Hyper Text Markup Language）文書や XHTML 文書等）ファイル、画像（静止画像）ファイル、及び動画ファイル等が記憶されている。
- [0043] ここで、Web ページ上に表示される基本コンテンツ情報と追加コンテンツ情報は、構造化文書にて規定される。また、基本コンテンツ情報と追加コンテンツ情報は、例えば、テキスト、静止画像、及び動画の 3 つのデータ種別に分けられる。例えば、追加コンテンツ情報がテキストの場合、その内容及びデータ種別が構造化文書中のタグ（例えば、<div>〜</div>）内に記述される。また、追加コンテンツ情報が静止画像又は動画の場合、そのファイル名、URL 及びデータ種別が構造化文書中のタグ（例えば、<div>〜</div>）内に記述される。また、基本コンテンツ情報と追加コンテンツ情報には、夫々、その内容の種別（以下、「コンテンツ種別」という）が割り当てられており、当該コンテンツ種別が構造化文書中のタグ（例えば、<div>〜</div>）内に記述される。かかるコンテンツ種別としては、例えば、商品やサービスのジャンル（カテゴリ）等が挙げられる。なお、基本コンテンツ情報を規定する構造化文書ファイルと追加コンテンツ情報を規定する構造化文書ファイルとは分けられているように構成しても良い。
- [0044] また、上記構造化文書中には、Web ページに対するユーザ操作情報を監

視し、該監視しているユーザ操作情報が所定の条件を満たしている場合に追加コンテンツ情報を該Webページ上の所定の表示位置に挿入するためのスクリプト（例えばJavaScript（登録商標）が記述されている。この所定の条件として、例えば、スクロール操作速度が所定値以下であること又は所定値より小さいこと、或いは、ユーザ操作の累計が所定回数以上であること又は所定回数より大きいこと等が規定される。なお、所定値は、管理者等により任意に決定されるものであり、例えば5 cm/秒～10 cm/秒の間に設定される。また、所定回数は、管理者等により任意に決定されるものであり、例えば、3回～10回の間に設定される。

[0045] また、上記構造化文書中には、Webページにおいて再生された動画データの再生終了を検出し、当該再生終了が検出されてから所定時間内にユーザ操作が有ったか否かを判定し、当該ユーザ操作が有ったと判定した場合に、追加コンテンツ情報をWebページ上の所定の表示位置に挿入するためのスクリプト（例えば、JavaScript（登録商標））が記述される場合もある。

[0046] また、上記構造化文書に複数の追加コンテンツ情報が規定される場合もある。この場合、Webページに対するユーザ操作情報が所定の条件を満たしている場合に、複数の追加コンテンツ情報のうち、どの追加コンテンツ情報を選定するかを選定基準が上記スクリプトに記述される。この選定基準として、例えば、ウインドウ画面内に現在表示されている基本コンテンツ情報のデータ種別に対応する追加コンテンツ情報を選定することが規定される。例えば、基本コンテンツ情報のデータ種別がテキストであるとする、これに対応する追加コンテンツ情報として、テキストからなる追加コンテンツ情報が選定される。また、この選定基準として、例えば、ウインドウ画面内に現在表示されている基本コンテンツ情報のコンテンツ種別と同一又は異なるコンテンツ種別を持った追加コンテンツ情報を選定することが規定される。なお、この選定基準として、複数の追加コンテンツ情報のうち何れかをランダムに選定することが規定されるようにしても良い。

[0047] また、上記構造化文書に複数の追加コンテンツ情報が規定される場合、上

記スクリプトにより、W e b ページのスクロール操作速度が所定の条件を満たしている間、各追加コンテンツ情報がW e b ページの所定の表示位置に順次挿入されていく（一例として、イメージ的には、<div>追加コンテンツ情報</div>が追加されていく）ようになっている。このとき、追加コンテンツ情報をW e b ページ上に表示する表示順番（言い換えれば、挿入順番）は、ユーザ端末 2 のW e b ブラウザによりランダムに決定されても良いし、或いは情報提供サーバ 1 のシステム制御部 1 4 により予め決定されても良い。システム制御部 1 4 により予め表示順番が決定された場合、各追加コンテンツ情報には、決定された表示順番が付与され、付与された表示順番は追加コンテンツ情報のデータ種別と共に構造化文書中のタグ内に記述される。なお、複数の追加コンテンツ情報は、一つの構造化文書ファイルに規定されても良いし、別々の構造化文書ファイルに規定されても良い。

[0048] 更に、上記構造化文書に複数の追加コンテンツ情報が規定されている場合において、上記再生終了が検出されてから所定時間内にユーザ操作があった場合に、複数の追加コンテンツ情報のうち、どの追加コンテンツ情報を選定するかを選定基準が上記スクリプトに記述される場合もある。この選定基準として、例えば、動画像データのコンテンツ種別と同一又は異なるコンテンツ種別を持った追加コンテンツ情報を選定することが規定される。この選定基準として、複数の追加コンテンツ情報のうち何れかをランダムに選定することが規定されるようにしても良い。

[0049] 入出力インターフェース部 1 3 は、通信部 1 1 及び記憶部 1 2 とシステム制御部 1 4 との間のインターフェース処理を行うようになっている。

[0050] システム制御部 1 4 は、C P U（Central Processing Unit）1 4 a、R O M（Read Only Memory）1 4 b、R A M（Random Access Memory）1 4 c 等により構成されている。システム制御部 1 4 は、オペレーティングシステム実行下で情報提供プログラムを実行することにより、本発明における送信手段、第 2 送信手段、監視手段、条件判定手段、挿入手段、及びデータ種別判定手段、及び再生終了検出手段等として機能し、以下の処理を行う。そして

、システム制御部 14 は、ユーザ端末 2 からの HTTP リクエストに応じて Web ページを生成し、ユーザ端末 2 に送信する。また、システム制御部 14 は、上記 Web ページが表示されたユーザ端末 2 からのストリーミング配信リクエストに応じて記憶部 12 から動画ファイルに格納された動画データを読み出し、これをユーザ端末 2 に配信する。また、システム制御部 14 は、追加コンテンツ情報の表示順序をオペレータからの指示にしたがって決定する。例えば、テキストからなる追加コンテンツ情報を優先して表示順序が決定される。

[0051] 次に、ユーザ端末 2 の構成及び機能について、図 3 を用いて説明する。図 3 は、ユーザ端末 2 の概要構成例を示すブロック図である。

[0052] 図 3 に示すように、ユーザ端末 2 は、操作部 21 と、表示部 22 と、通信部 23 と、ドライブ部 24 と、記憶部 25 と、入出力インターフェース部 26 と、システム制御部 27 と、を備えている。そして、システム制御部 27 と入出力インターフェース部 26 とは、システムバス 28 を介して接続されている。ユーザ端末 2 としては、例えば、パーソナルコンピュータ、PDA (Personal Digital Assistant)、又は携帯電話機等を適用できる。

[0053] 操作部 21 は、例えば、キーボード及びマウス等を備える。

[0054] 表示部 22 は、Web ページ等を表示するためのディスプレイを備える。

[0055] 通信部 23 は、ネットワーク NW に接続して情報提供サーバ 1 等との通信状態を制御する。

[0056] ドライブ部 24 は、例えば、CD、DVD 等のディスク DK (記録媒体の一例) からデータ等を読み出す一方、当該ディスク DK に対してデータ等を記録する。

[0057] 記憶部 25 は、例えば、ハードディスクドライブ等からなり、オペレーティングシステム (OS)、Web ブラウザプログラム (本発明の端末処理プログラムを含む) 等を記憶する。なお、本発明の端末処理プログラムは、例えば、所定のサーバ等からネットワーク NW を介して取得 (ダウンロード) されるようにしても良いし、CD、DVD 等の記録媒体に記録されてドラ

イブ部24を介して読み込まれるようにしても良い。

[0058] 次に、システム制御部27は、CPU27a、ROM27b、及びRAM27c等を備える。そして、システム制御部27は、CPU27aが、Webブラウザの起動後、オペレーティングシステム実行下でWebブラウザプログラムを実行することによりWebブラウザが起動し、本発明における第1取得手段、第2取得手段、表示手段、監視手段、条件判定手段、挿入手段、再生終了検出手段、及びデータ種別判定手段として機能し、以下の処理を行う。なお、Webブラウザには、Flash Player等の動画再生プログラムがプラグインされており、これにより、Webページ上に表示する動画データが情報提供サーバ1から取得されつつ再生される。つまり、情報提供サーバ1から配信されてきた動画データ（例えば、Flashコンテンツ）が通信部23で受信され、RAM27cのバッファ領域に蓄積されつつストリーミング再生される。

[0059] （第1実施形態）

次に、第1実施形態におけるWebページ表示処理について、図4を用いて説明する。

[0060] 図4（A）、（B）は、第1実施形態におけるWebページ表示処理を示すフローチャートであり、図4（A）は、監視対象がスクロール操作速度である場合を、図4（B）は、監視対象がユーザ操作の回数である場合を夫々示す。

[0061] 先ず、図4（A）に示すWebページ表示処理について説明する。図4（A）に示すWebページ表示処理は、ユーザ端末2において、Webブラウザが起動し、ユーザ端末2から情報提供サーバ1に送信されたHTTPリクエストに応じて、情報提供サーバ1から返信されたWebページを構成するデータ（構造化文書ファイル等）が受信、取得されることにより開始される。なお、当該取得されたWebページを構成するデータ中には、基本コンテンツ情報と追加コンテンツ情報が含まれているものとする。

[0062] 図4に示すWebページ表示処理では、情報提供サーバ1のシステム制御

部 1 4 が、ユーザ端末 2 へ W e b ページを送信して W e b ブラウザに表示させる（ステップ S 1）。つまり、ユーザ端末 2 のシステム制御部 2 7 は、取得した W e b ページを表示部 2 2 のディスプレイ上に表れたウィンドウ画面内に表示する。

[0063] 次いで、ステップ S 2 では、ユーザから操作部 2 1 を通じてスクロール操作があったか否かがシステム制御部 1 4 又はシステム制御部 2 7 により判定される。そして、スクロール操作がないと判定された場合には（ステップ S 2 : N O）、W e b ページの表示終了指示があったか否かが判定される（ステップ S 3）。なお、例えば、ユーザにより、W e b ページを閉じるボタン（又は戻るボタン）がクリックされた場合、又は他の W e b ページへジャンプするためのハイパーリンクがクリックされた場合、W e b ページの表示終了指示があったと判定される。そして、当該表示終了指示があった場合には（ステップ S 3 : Y E S）、当該処理は終了し、当該表示終了指示がない場合には（ステップ S 3 : N O）、ステップ S 2 に戻る。

[0064] 一方、スクロール操作があったと判定された場合には（ステップ S 2 : Y E S）、ステップ S 4 に進む。

[0065] ステップ S 4 に示すスクロール処理では、システム制御部 2 7 は、上記スクロール操作に係る信号にしたがって、ウィンドウ画面内で W e b ページの表示領域をスクロールさせると、システム制御部 1 4 が当該スクロール処理を認識する。こうして W e b ページがスクロールされると、例えば、W e b ページを構成する構造化文書に記述されたスクリプトにしたがって、スクロール操作速度がシステム制御部 1 4 又はシステム制御部 2 7 により監視される。スクロール操作速度は、W e b ページの表示領域が移動する速度である。例えば、W e b ページの表示領域が変移（移動）した量（長さ）を、当該変移（移動）するのに要した時間で割った値がスクロール操作速度として検出される。

[0066] ステップ S 5 では、監視されているスクロール操作速度が、例えば、所定値（スクリプトで規定）より小さいか否かがシステム制御部 1 4 又はシステ

ム制御部 27 により判定される（ステップ S 5）。なお、監視対象のスクロール操作速度は、Web ページがスクロールしている間に例えば複数回検出されたスクロール操作速度の平均値、最大値、最小値、又は出現頻度が一番高いスクロール操作速度等であっても良い。そして、スクロール操作速度が所定値より小さくないと判定された場合には（ステップ S 5：NO）、ステップ S 2 に戻り、上記と同様の処理を繰り返す。すなわち、例えば、Web ページが速くスクロールしている場合には、当該 Web ページの最下端部までスクロールされ、例えば商品を購入するための決済ボタンが表示される。

[0067] 一方、スクロール操作速度が所定値より小さいと判定された場合には（ステップ S 5：YES）、追加コンテンツ情報が Web ページ上のウィンドウ画面内の例えば下部表示位置に挿入される（ステップ S 6）。例えば、システム制御部 14 が追加コンテンツ情報をシステム制御部 27 に挿入させる。すなわち、例えば、Web ページがゆっくりとスクロールしている場合、つまり、ユーザが Web ページ上に表示された基本コンテンツ情報をじっくりと閲覧している場合には、Web ページの最下端部までスクロールされるまでの間の表示位置に追加コンテンツ情報が挿入され、表示されることになる。かかる追加コンテンツ情報の挿入は、例えば、Web ページを構成する構造化文書内に、予め、空のタグ（例えば、<div>～</div>内が空）を記述しておき、ユーザ操作情報が所定の条件を満たしている場合に、追加コンテンツ情報が規定された HTML タグに変更される（言いかえれば、切り替える、差し替える、又は置き換える）ように構成することで実現することができる。或いは、追加コンテンツ情報の挿入は、Web ページを構成する構造化文書内に、予め、追加コンテンツ情報を非表示レイヤーとして規定しておき、ユーザ操作情報が所定の条件を満たしている場合に、表示レイヤーに変更される（言いかえれば、切り替える）ように構成することで実現することができる。

[0068] このように、追加コンテンツ情報が Web ページ上に挿入される様子を図 5 に示す。

[0069] 図5（A）、（B）に示す例では、基本コンテンツ情報の下部位置に追加コンテンツ情報Xが挿入されている。

[0070] ここで、Webページを構成する構造化文書に記述されたスクリプトに、基本コンテンツ情報のデータ種別に対応する追加コンテンツ情報を選定する選定基準が記述されている場合がある。かかる場合、ステップS5でスクロール操作速度が所定値より小さいと判定された場合に、Webページ上に現在表示されている基本コンテンツ情報のデータ種別がシステム制御部14又はシステム制御部27により判定される。そして、判定したデータ種別に対応する追加コンテンツ情報が、複数の追加コンテンツ情報（選定候補）の中から選定され、選定された追加コンテンツ情報が上記ウィンドウ画面の例えば下部表示位置に挿入される。例えば、基本コンテンツ情報のデータ種別が静止画像であるとする、図5に示す例では、3つの追加コンテンツ情報X～Zのうち、データ種別が静止画像（つまり、データ種別が基本コンテンツ情報と一致する）である追加コンテンツ情報Yが選定されている。例えば静止画像からなる基本コンテンツ情報が表示されているときのスクロール操作速度が遅いということは、ユーザは静止画像を好んでいる可能性が高い。従って、ユーザが最も好むデータ種別で追加コンテンツ情報を表示することができる。

[0071] そして、ステップS6の処理が終了すると、ステップS2に戻り上記と同様の処理が繰り返される。例えばスクロール操作が継続している場合、再度ステップS5の判定が実行され、スクロール操作速度が所定値より小さいと判定された場合には、次の追加コンテンツ情報がWebページ上のウィンドウ画面の例えば前回表示された追加コンテンツ情報の下部表示位置に挿入される。このように、スクロール操作が継続し、なおかつ、スクロール操作速度が所定値より小さい場合、追加コンテンツ情報が順次挿入されていくことになる。なお、Webページが、検索サイトから提供される検索結果ページである場合とする。この場合、例えば上位1位から100位までの各レコード（つまり、スニペット（キーワードが含まれるテキストの抜き出し文）が

表示されたレコード)を含む検索結果が基本コンテンツ情報として表示された検索結果ページに対するユーザ操作情報に基づいて(例えば、スクロール操作速度が所定値より小さい場合に)、101位以下の各レコードを含む検索結果が追加コンテンツ情報として挿入される。これにより、ユーザが、上位1位から100位までの各レコードに関する情報(例えばスニペットなど)を読んでいるか否かをスクロール速度で判別して、スクロール速度が遅い場合、各レコードに関する情報を読んでいると見做して、次の101位以下の各レコードを含む検索結果をより効果的に表示させることができる。

[0072] 図6は、複数の追加コンテンツ情報がWebページ上に順次挿入される様子を示す図である。図6(A)~(C)に示す例では、3つの追加コンテンツ情報X~Zが順次挿入されている。

[0073] ここで、Webページを構成する構造化文書中に各追加コンテンツ情報の表示順番が記述されている場合、各追加コンテンツ情報に付与された表示順番に基づいて、各追加コンテンツ情報がウィンドウ画面の例えば下部表示位置に順次挿入される。図6に示す例では、追加コンテンツ情報Xの表示順番が2番、追加コンテンツ情報Yの表示順番が3番、追加コンテンツ情報Zの表示順番が1番となっているので、追加コンテンツ情報Z→追加コンテンツ情報X→追加コンテンツ情報Yという表示順序でWebページ上に挿入されている。これにより、情報提供サーバ1の運営者側で決定した表示順序で追加コンテンツ情報を表示させることができる。

[0074] なお、上記処理においては、追加コンテンツ情報のWebページ上への挿入タイミングは、スクロール操作速度が所定値より小さいと判定された時としたが、別の例として、スクロール操作速度が所定値より小さいと判定された後のスクロール操作の終了時(又はスクロール操作の開始時)であっても良い。或いは、スクロール操作速度が所定値より小さいと判定された後、一定間隔毎に追加コンテンツ情報がWebページ上に挿入されるように構成しても良い。

[0075] 次に、図4(B)に示すWebページ表示処理について説明する。なお、

図４（Ｂ）に示すＷｅｂページ表示処理において、図４（Ａ）に示すＷｅｂページ表示処理における処理と同様の処理については説明を省略する。

[0076] 図４（Ｂ）に示すステップＳ１２では、ユーザから操作部２１を通じて、上述した何れかのユーザ操作が行われたか否かがシステム制御部１４又はシステム制御部２７により判定される。そして、ユーザ操作が行われていないと判定された場合には（ステップＳ１２：ＮＯ）、Ｗｅｂページの表示終了指示があったか否かが判定される（ステップＳ１３）。そして、当該表示終了指示があった場合には（ステップＳ１３：ＹＥＳ）、当該処理は終了し、当該表示終了指示がない場合には（ステップＳ１３：ＮＯ）、ステップＳ１２に戻る。

[0077] 一方、ユーザ操作が行われたと判定（ユーザ操作を検出）された場合には（ステップＳ１２：ＹＥＳ）、当該ユーザ操作の回数がカウント（例えば、変数ｘに１を加算）される（ステップＳ１４）。なお、ユーザ操作には、スクロール操作、クリック、タップ等があるが何れが行われても、ユーザ操作の回数はカウントされることになる。

[0078] 次いで、ステップＳ１５では、ステップＳ１２で行われたユーザ操作に応じた処理がシステム制御部２７により実行され、システム制御部１４により当該ユーザ操作に応じた処理が認識される。

[0079] 次いで、監視されているユーザ操作の累計（カウントされた値）が所定回数より大きくなったか否かがシステム制御部１４又はシステム制御部２７により判別され（ステップＳ１６）、所定回数より大きくない場合には（ステップＳ１６：ＮＯ）、ステップＳ１２に戻り、上記と同様の処理を繰り返す。

[0080] 一方、所定回数より大きくなった場合には（ステップＳ１６：ＹＥＳ）、図４（Ａ）に示すステップＳ６と同様、追加コンテンツ情報がＷｅｂページ上のウィンドウ画面内の所定位置に挿入される（ステップＳ１７）。

[0081] ところで、ステップＳ１２で、スクロール操作、クリック、タップ等のユーザ操作が行われた場合、当該ユーザ操作を示す情報が情報提供サーバ１に

送信されるように構成しても良い。この場合、情報提供サーバ１が、ユーザ端末２からのユーザ操作の回数をカウントし、当該回数の累計（カウントされた値）が所定回数より大きくなったか否かを判別し、所定回数より大きくなった場合に、追加コンテンツ情報をユーザ端末２に送信する。そして、ユーザ端末２のシステム制御部２７は、情報提供サーバ１から送信された追加コンテンツ情報を取得しこれをＷｅｂページ上に挿入する。なお、ユーザ端末２が該ユーザ操作を示す情報を情報提供サーバ１に送信するタイミングとしては、例えば、ユーザ操作に応じた処理の終了時、次回のユーザ操作の検出時、所定時間（例えば、１分）毎、又は、所定量のデータ蓄積が検知される毎等が挙げられる。

[0082] 以上説明したように、上記第１実施形態によれば、表示されているＷｅｂページに対するユーザ操作情報を監視し、当該監視しているユーザ操作情報が所定の条件を満たしている場合に、表示されているＷｅｂページ上の所定の表示位置に追加コンテンツ情報を挿入するように構成したので、Ｗｅｂページの情報に関心が低いユーザに対しては提示する情報を少なくすることで重要な情報の読み飛ばしを少なくできる一方、Ｗｅｂページの情報に関心が高いユーザに対しては提示する情報を追加していくことでユーザ自身が関連情報や詳細情報を収集する手間を省くことができる。よって、Ｗｅｂページの情報に関心が低いユーザとＷｅｂページの情報に関心が高いユーザとの双方に対して、より効率良くＷｅｂページ上で情報を閲覧させることができる。

[0083] また、表示されているＷｅｂページのスクロール操作速度が遅い（例えば所定値以下）場合に上記所定の条件を満たしていると判定する構成によれば、ユーザによる１回のスクロール操作で、当該ユーザがＷｅｂページの情報に関心が高いか低いかを迅速に判定することができる。また、表示されているＷｅｂページに対するユーザ操作の回数が多い（所定回数以上）場合に上記所定の条件を満たしていると判定する構成によれば、当該ユーザがＷｅｂページの情報に関心が高いか低いかを、精度良く判定することができる。

- [0084] なお、上記実施形態においては、最初に取得されたWebページを構成するデータ中に追加コンテンツ情報が含まれているものとしたが、別の例として、ユーザ操作情報が所定の条件を満たしている（例えば、スクロール操作速度が所定値より小さい）と判定される毎に、ユーザ端末2が追加コンテンツ情報を規定する構造化文書ファイルを情報提供サーバ1から取得する（言い換えれば、情報提供サーバ1が追加コンテンツ情報を規定する構造化文書ファイルをユーザ端末1へ送信する）ように構成しても良い。この構成の場合、基本コンテンツ情報を規定する構造化文書中のタグ内に追加コンテンツ情報を規定する構造化文書ファイルの例えばURLが記述されており、URLにしたがって構造化文書ファイルが取得され追加コンテンツ情報がWebページ上に挿入される。または、基本コンテンツ情報を規定する構造化文書中のタグ内に追加コンテンツ情報を記述するWebページのURLが記述されており、URLにしたがって追加コンテンツ情報を記述するWebページが情報提供サーバ1から取得され（言い換えれば、情報提供サーバ1が追加コンテンツ情報を記述するWebページをユーザ端末1へ送信）、当該Webページがウィンドウ画面に表示されるように構成しても良い。
- [0085] また、上記実施形態においては、追加コンテンツ情報をWebページ上のウィンドウ画面内の下部表示位置に挿入するように構成したが、追加コンテンツ情報を、Webページ上に表示されている基本コンテンツ情報と差し替える（動的に変更）ことにより、当該追加コンテンツ情報を挿入するように構成しても良い。
- [0086] また、図6（A）～（C）に示すように追加コンテンツ情報X～Zが順次挿入されるのではなく、追加コンテンツ情報Xが挿入された後、追加コンテンツ情報Xに代えて追加コンテンツ情報Yが挿入（つまり、差し替え）、更にその後、追加コンテンツ情報Yに代えて追加コンテンツ情報Zが挿入されるように構成しても良い。
- [0087] また、上記実施形態においては、Webページを構成する構造化文書に記述されたスクリプトに追加コンテンツ情報を選定する選定基準が記述される

例を示したが、他の例として、スクロール操作により得られるユーザの興味度（関心度）の高い追加コンテンツ情報を選定することを選定基準としても良い。これによれば、例えば、スクロール操作速度が所定値より小さいと判定された時に表示（つまり、ゆっくりとスクロール表示）されている基本コンテンツ情報が例えば商品の仕様であって場合、より詳細な仕様を有する追加コンテンツ情報がユーザの興味度が高いとして選定される。従って、ユーザが興味度の高い追加コンテンツ情報を表示することができる。

[0088] また、他の例として、Webブラウザのウィンドウ画面の表示サイズの変更（変形／拡大／縮小など）操作後に、アクティブな表示領域に含まれている基本コンテンツ情報に対応した追加コンテンツ情報を選択することを選定基準としても良い。これによれば、ユーザが興味度の高い追加コンテンツ情報を表示することができる。

[0089] また、他の例として、ユーザのWebページの閲覧履歴に基づいて追加コンテンツ情報を選定することを選定基準としても良い。これによれば、例えば、情報提供サーバ1がユーザ端末2のユーザのWebページの閲覧履歴を蓄積しておき、当該ユーザのログイン後にユーザ端末2に送信されたWebページのスクロール操作速度が所定値より小さいと判定された場合、その情報をユーザ端末2から受けた情報提供サーバ1が当該ログインしたユーザのWebページの閲覧履歴に基づき当該ユーザの関心度の高い追加コンテンツ情報を選定してユーザ端末2に送信する。従って、ユーザが興味度の高い追加コンテンツ情報を表示することができる。

[0090] また、他の例として、協調フィルタリングに基づいて追加コンテンツ情報を選定することを選定基準としても良い。これによれば、例えば、情報提供サーバ1が多くのユーザの嗜好情報を蓄積しておき、当該ユーザのログイン後にユーザ端末2に送信されたWebページのスクロール操作速度が所定値より小さいと判定された場合、その情報をユーザ端末2から受けた情報提供サーバ1が、当該ログインしたユーザと嗜好の類似した他のユーザの情報をを用いて追加コンテンツ情報を選定してユーザ端末2に送信する。従って、ユ

ーザが嗜好すると推定される追加コンテンツ情報を表示することができる。

[0091] 更に、上記構造化文書中には、Web ページに対するユーザ操作情報を監視し、該監視しているユーザ操作情報が所定の条件を満たしている場合に追加コンテンツ情報を該Web ページ上の所定の表示位置に挿入するためのスクリプトが記述される構成例を説明したが、このユーザ操作情報を、表示されているWeb ページのスクロールの停止操作であるとし、所定の条件として、表示されているWeb ページのスクロールが停止したことが規定されるように構成しても良い。この構成による場合のWeb ページ表示処理について、図 7 を参照して説明する。

[0092] なお、図 7 に示すWeb ページ表示処理において、図 4 (A) に示すWeb ページ表示処理における処理と同様の処理については説明を省略する。

[0093] 図 7 に示すステップ S 2 2 では、ユーザから操作部 2 1 を通じて、スクロール開始指示があったか否かがシステム制御部 1 4 又はシステム制御部 2 7 により判定される。例えば、Web ページ上に表示されたスクロール開始ボタンがユーザによりマウスでクリックされた場合、スクロール開始指示があったと判定される。そして、スクロール開始指示がないと判定された場合には（ステップ S 2 2 : NO）、ステップ S 2 3 に進み、スクロール開始指示があったと判定された場合には（ステップ S 2 2 : YES）、自動スクロール処理がシステム制御部 2 7 により実行される（ステップ S 2 4）。この自動スクロール処理は、例えば、Web ページを構成する構造化文書内に記述された自動スクロールのスクリプトにしたがって行われる。こうして、ウィンドウ画面内でWeb ページの表示領域が自動的（何らのユーザ操作を伴うことなく）にスクロールすることになる。

[0094] 次いで、ユーザから操作部 2 1 を通じて、スクロール停止指示（スクロールの停止操作）があったか否かがシステム制御部 1 4 又はシステム制御部 2 7 により判定される（ステップ S 2 5）。例えば、Web ページ上に表示されたスクロール停止ボタンがユーザによりマウスでクリック（ウィンドウ画面上の任意の位置のクリックでも良い）された場合、スクロール停止指示が

あったと判定される。そして、スクロール停止指示がないと判定された場合には（ステップS 2 5：N O）、ステップS 2 4に戻って自動スクロール処理が継続され、スクロール停止指示があったと判定された場合には（ステップS 2 5：Y E S）、自動スクロール処理が停止され、ステップS 2 6に進む。

[0095] そして、ステップS 2 6では、上述したステップS 6と同様、追加コンテンツ情報がW e b ページ上のウィンドウ画面内の所定の表示位置に挿入される。例えば、システム制御部 1 4 が追加コンテンツ情報をシステム制御部 2 7 に挿入させる。この場合において、システム制御部 2 7 は、スクロール停止指示によりスクロールが停止された時にウィンドウ画面内に表示されているW e b ページの表示領域を画定するための座標情報（例えば、4 つの頂点の座標）を情報提供サーバ 1 に送信するとよい。

[0096] 自動スクロールが停止された時に表示されている情報は、ユーザの関心が高いと推定できる。

[0097] そして、情報提供サーバ 1 は、上記座標情報をユーザ端末 2 から受信すると、当該座標情報により特定されるW e b ページ上に配置された情報（例えば、テキストや静止画像等のコンテンツ）を特定し、特定した情報に関連する追加コンテンツ情報をデータベースから 1 つ又は複数取得し、当該追加コンテンツ情報をユーザ端末 2 に送信する。ここで取得される追加コンテンツ情報としては、例えば、上記特定した情報が商品等の説明や画像であった場合、当該商品の詳細情報や当該商品に類似する商品のレコメンド情報等が挙げられる。

[0098] こうして、ユーザ端末 2 により追加コンテンツ情報が受信されると、当該追加コンテンツ情報がW e b ページ上のウィンドウ画面内の所定の表示位置に挿入される。このような構成によれば、ユーザによる 1 回のスクロールの停止操作で、当該ユーザがW e b ページの情報に関心が高いか低いかを迅速に判定することができ、ユーザのより関心が高い（ユーザの興味に適した）追加コンテンツ情報をユーザに閲覧させることができ、より付加価値の高い

パーソナライズを実現することができる。

[0099] なお、この場合において、追加コンテンツ情報は、Webページの自動スクロール停止後、ユーザからのスクロール開始指示によりスクロールが再開された場合に、Webページ上のウィンドウ画面内の所定の表示位置に挿入（複数の追加コンテンツ情報が取得された場合、図6に示すように順次挿入）されるように構成すれば、追加コンテンツ情報を、より効果的にユーザに閲覧させることができる。また、上記例では、自動スクロールの場合について説明したが、手動でのスクロール操作開始後、一定時間スクロール停止が続いた場合に上記ステップS25でスクロール停止指示があったと判定しても構わない。

[0100] （第2実施形態）

次に、第2実施形態におけるWebページ表示処理について、図8を用いて説明する。

[0101] 図8は、第2実施形態におけるWebページ表示処理を示すフローチャートである。

[0102] 先ず、図8に示すWebページ表示処理について説明する。図8に示すWebページ表示処理は、ユーザ端末2において、Webブラウザが起動し、ユーザ端末2から情報提供サーバ1に送信されたHTTPリクエストに応じて、情報提供サーバ1から返信されたWebページを構成するデータ（構造化文書ファイル等）が受信、取得されることにより開始される。なお、当該取得されたWebページを構成するデータ中には、追加コンテンツ情報が含まれているものとする。

[0103] 図8に示すWebページ表示処理では、情報提供サーバ1のシステム制御部14が、ユーザ端末2へWebページを送信してWebブラウザに表示させる（ステップS31）。つまり、ユーザ端末2のシステム制御部27は、取得したWebページを表示部22のディスプレイ上に表れたウィンドウ画面内に表示する。

[0104] 次いで、ステップS32では、Webページ上に表示すべき動画像に係る

動画データの再生開始指示があったか否かがシステム制御部 14 又はシステム制御部 27 により判定される（ステップ S 32）。例えば、Web ページ上に組み込まれた動画像の表示領域内に設けられた再生開始ボタンがユーザによりクリックされた場合に再生開始指示があったと判定される。なお、Web ページが表示されたことをトリガとして再生開始指示があったと判定されても良い。

[0105] そして、再生開始指示があったと判定された場合には（ステップ S 32：YES）、ステップ S 33 に進み、再生開始指示が無いと判定された場合には（ステップ S 32：NO）、ステップ S 42 に進む。

[0106] ステップ S 33 では、システム制御部 27 は、動画再生プログラムを起動し、再生処理を行うと、システム制御部 14 が当該再生処理を認識する。この再生処理では、システム制御部 27 は、情報提供サーバ 1 にストリーミング配信リクエストを送信し、情報提供サーバ 1 から動画像データを取得しつつ（ダウンロードしてバッファ領域に蓄積しつつ）再生する。こうして再生された動画像（各フレーム）が Web ページ上に表示されることになる。

[0107] 次に、ユーザ操作があったか否かがシステム制御部 14 又はシステム制御部 27 により判定される（ステップ S 34）。そして、ユーザ操作があったと判定された場合には（ステップ S 34：YES）、ステップ S 35 に進み、ユーザ操作が無いと判定された場合には（ステップ S 34：NO）、ステップ S 37 に進む。

[0108] ステップ S 35 では、システム制御部 27 は、ユーザにより行われたユーザ操作がユーザからの再生停止指示であるか否かがシステム制御部 14 又はシステム制御部 27 により判定される。例えば、ユーザにより、再生停止ボタンがクリックされた場合、Web ページを閉じるボタン（又は戻るボタン）がクリックされた場合、又は他の Web ページへジャンプするためのハイパーリンクがクリックされた場合に再生停止指示であると判定される。

[0109] そして、再生停止指示でないと判定された場合には（ステップ S 35：NO）、ユーザ操作に応じた処理（例えば、動画データの一時停止処理等）を

行う（ステップS 3 6）。一方、再生停止指示であると判定された場合には（ステップS 3 5：Y E S）、動画データの再生が停止され、ステップS 4 2に進む。

[0110] ステップS 3 7では、動画データの再生終了が検出されたか否かがシステム制御部1 4又はシステム制御部2 7により判定される。動画データの再生終了は、動画データの再生が開始（タイムラインにおける先頭時刻）された後、最後（タイムラインにおける終了時刻）まで再生された場合に検出される。なお、動画データの再生が開始された後、途中でユーザによるスキップ操作を経て（途中のある一定期間における動画像が表示されない）、最後まで再生された場合も動画データの再生終了を検出することになるが、このスキップ操作があった場合には、動画データの再生終了が検出されたと判定されないように構成しても良い。このように構成すれば、ユーザがなんとなく動画像を見ている（動画像のコンテンツ情報にあまり関心が無い）ユーザに対しては、追加コンテンツ情報の提示を省略することができる。

[0111] そして、動画データの再生終了が検出されていない場合には（ステップS 3 7：N O）、ステップS 3 3に戻り再生処理が継続する。一方、動画データの再生終了が検出された場合には（ステップS 3 7：Y E S）、例えばスクリプトによるタイマのカウントが開始され、ユーザ操作があったか否かがシステム制御部1 4又はシステム制御部2 7により判定される（ステップS 3 8）。このときのユーザ操作として、上述したように、スクロール操作、画面に表示されたポインタの移動操作、及びタッチパネル式のディスプレイへの接触が挙げられるが、このうち、スクロール操作とすれば、後述するように、追加コンテンツ情報を挿入し易く、順次挿入することができるので好適である。

[0112] そして、例えばスクロール操作が無いと判定された場合には（ステップS 3 8：N O）、所定時間（例えば、2秒～5秒）が経過した（例えば、上記タイマがカウントアップしたか）か否かが判定される（ステップS 3 9）。そして、所定時間が経過していないと判定された場合には（ステップS 3 9

：NO）、ステップS 3 8に戻り上記と同様の処理が行われ、所定時間が経過したと判定された場合には（ステップS 3 9：YES）、ステップS 4 2に進む。つまり、この処理で、動画データの再生終了が検出されてから所定時間内に例えばスクロール操作があったか否かがシステム制御部 1 4 又はシステム制御部 2 7により判定される。

[0113] 一方、ステップS 3 8において、例えばスクロール操作があったと判定された場合には（ステップS 3 8：YES）、追加コンテンツ情報がWeb ページ上のウィンドウ画面内の例えば下部表示位置に挿入される（ステップS 4 0）。

[0114] 以上のように、動画データの再生終了が検出されてから所定時間内に例えばスクロール操作が有ることを条件として、ユーザに対して、追加コンテンツ情報が提示される。これは、動画データが再生終了に至ったことがユーザが動画像に関心を持っていると推定できる（前提として、再生終了に至らない場合、関心がないと推定）一方、所定時間を経過したことが、ユーザがWeb ページを閲覧していない（放置している）と推定できる点に着目したものである。

[0115] なお、追加コンテンツ情報の挿入は、例えば、Web ページを構成する構造化文書内に、予め、空のタグ（例えば、<div>～</div>内が空）を記述しておき、スクロール操作があった場合に、追加コンテンツ情報が規定されたHTML タグに変更される（言い換えれば、切り替える、差し替える、又は置き換える）ように構成することで実現することができる。或いは、追加コンテンツ情報の挿入は、Web ページを構成する構造化文書内に、予め、追加コンテンツ情報を非表示レイヤーとして規定しておき、ユーザ操作情報が所定の条件を満たしている場合に、表示レイヤーに変更される（言い換えれば、切り替える）ように構成することで実現することができる。

[0116] 次いで、ユーザ操作が継続している（例えば、スクロール操作に係る操作信号が連続して入力されている）か否かがシステム制御部 1 4 又はシステム制御部 2 7により判定され（ステップS 4 1）、継続していない場合には（

ステップS 4 1 : N O) 、ステップS 4 2に進み、継続している場合には (ステップS 4 1 : Y E S) 、ステップS 4 0に戻り、次の追加コンテンツ情報がW e b ページ上のウィンドウ画面内の例えば下部表示位置に挿入される。これにより、例えばスクロール操作が継続している場合、当該W e b ページの最下端部にある例えば商品を購入するための決済ボタンまで、複数の追加コンテンツ情報が順次挿入されていくことになる。

[0117] 図9は、動画データの再生終了後に追加コンテンツ情報が挿入される様子を示す図である。動画データの再生にしたがって、図9 (A) に示すように、W e b ページP上に動画像5 1が表示され、時間が経過するにつれて、再生時刻 (再生位置) を示す再生バー5 2がタイムラインバー5 3上を右方向に移動していく。そして、図9 (B) に示すように、再生バー5 2がタイムラインバー5 3の右端まで達し、動画データの再生が終了してから所定時間内にスクロール操作が有ると、図9 (C) に示すように、追加コンテンツ情報XがW e b ページP上に挿入表示される。更に、スクロール操作が継続されると、図9 (D) に示すように、次の追加コンテンツ情報YがW e b ページP上に挿入表示される。

[0118] ここで、W e b ページを構成する構造化文書中に各追加コンテンツ情報の表示順番が記述されている場合、各追加コンテンツ情報に付与された表示順番に基づいて、各追加コンテンツ情報がW e b ページ上に順次挿入されることになる。図9の例では、追加コンテンツ情報Xの表示順番が1番、追加コンテンツ情報Yの表示順番が2番となっている例である。これにより、情報提供サーバ1の運営者側で決定した表示順序で追加コンテンツ情報を表示させることができる。

[0119] なお、上記処理においては、追加コンテンツ情報のW e b ページ上への挿入タイミングは、例えばスクロール操作が有った時としたが、「スクロール操作が有りこれが終了後、次のユーザ操作があった時」、或いは、「スクロール操作が有りこれが終了後、所定時間経過時」としても良い。

[0120] 一方、ステップS 4 2では、W e b ページの表示終了指示が有ったか否か

が判定される。そして、当該表示終了指示が有った場合には（ステップS 4 2 : Y E S）、当該処理は終了し、当該表示終了指示が無い場合には（ステップS 4 2 : N O）、ステップS 3 2に戻る。なお、例えば、ユーザにより、W e b ページを閉じるボタン（又は戻るボタン）がクリックされた場合、又は他のW e b ページへジャンプするためのハイパーリンクがクリックされた場合、W e b ページの表示終了指示があったと判定される。

[0121] 以上説明したように、上記第2実施形態によれば、W e b ページ上に表示される動画像に係る動画データの再生終了が検出されてから所定時間内にユーザ操作が有った場合に、追加コンテンツ情報をW e b ページ上に挿入表示するように構成したので、W e b ページ上に表示された動画像の内容に関心が低いユーザに対しては提示する情報を少なくできる一方、W e b ページ上に表示された動画像の内容に関心が高いユーザに対しては提示する情報を追加していくことでユーザ自身が関連情報や詳細情報を収集する手間を省くことができる。よって、W e b ページ上に表示された動画像の内容に関心が低いユーザとW e b ページ上に表示された動画像の内容に関心が高いユーザとの双方に対して、より効率良くW e b ページ上で情報を閲覧させることができる。

[0122] なお、上記第2実施形態においては、最初に取得されたW e b ページを構成するデータ中に追加コンテンツ情報が含まれているものとしたが、別の例として、動画データの再生終了が検出されてから所定時間内にユーザ操作が有った場合に、ユーザ端末2が追加コンテンツ情報を規定する構造化文書ファイルを情報提供サーバ1から取得するように構成しても良い。この構成の場合、構造化文書中のタグ内に追加コンテンツ情報を規定する構造化文書ファイルの例えばURLが記述されており、URLにしたがって構造化文書ファイルが取得され追加コンテンツ情報がW e b ページ上に挿入される。または、構造化文書中のタグ内に追加コンテンツ情報を記述するW e b ページのURLが記述されており、URLにしたがって追加コンテンツ情報を記述するW e b ページが情報提供サーバ1から取得され当該W e b ページがウイン

ドウ画面に表示されるように構成しても良い。

[0123] また、上記第2実施形態においては、追加コンテンツ情報をWebページ上のウィンドウ画面内の下部表示位置に挿入するように構成したが、追加コンテンツ情報を、Webページ上に表示されている基本コンテンツ情報と差し替える（動的に変更）ことにより、当該追加コンテンツ情報を挿入するように構成しても良い。

[0124] また、図9（C）、（D）に示すように追加コンテンツ情報X、Yが順次挿入されるのではなく、追加コンテンツ情報Xが挿入された後、追加コンテンツ情報Xに代えて追加コンテンツ情報Yが挿入（つまり、差し替え）されるように構成しても良い。

[0125] また、他の例として、ユーザのWebページの閲覧履歴に基づいて追加コンテンツ情報を選定することを選定基準としても良い。これによれば、例えば、情報提供サーバ1がユーザ端末2のユーザのWebページの閲覧履歴を蓄積しておき、ユーザ端末2のユーザのログイン後に、情報提供サーバ1は、当該ログインしたユーザのWebページの閲覧履歴に基づき当該ユーザの関心度の高い追加コンテンツ情報を選定してユーザ端末2に送信する。従って、ユーザが興味度の高い追加コンテンツ情報を表示することができる。

符号の説明

- [0126] 1 情報提供サーバ
- 2 ユーザ端末
- 1 1 通信部
- 1 2 記憶部
- 1 3 入出力インターフェース部
- 1 4 システム制御部
- 1 5 システムバス
- 2 1 操作部
- 2 2 表示部
- 2 3 通信部

2 4 ドライブ部

2 5 記憶部

2 6 入出カインターフェース部

2 7 システム制御部

2 8 システムバス

NW ネットワーク

S 情報提供システム

請求の範囲

- [請求項1] 端末装置がネットワークを介してアクセス可能なサーバ装置であって、
前記端末装置へW e b ページを送信する送信手段と、
前記端末装置に表示された前記W e b ページに対するユーザ操作情報を監視する監視手段と、
前記監視しているユーザ操作情報が所定の条件を満たしているか否かを判定する条件判定手段と、
前記条件判定手段により前記条件を満たしていると判定された場合に、前記端末装置に表示されているW e b ページ上の所定の表示位置に挿入情報を挿入させる挿入手段と、
を備えることを特徴とするサーバ装置。
- [請求項2] 請求項 1 に記載のサーバ装置において、
前記ユーザ操作情報が前記表示されているW e b ページのスクロール操作速度であることを特徴とするサーバ装置。
- [請求項3] 請求項 1 に記載のサーバ装置において、
前記ユーザ操作情報が前記表示されているW e b ページのスクロール、クリック、タップ、表示サイズの変更などのユーザ操作の回数であることを特徴とするサーバ装置。
- [請求項4] 請求項 1 に記載のサーバ装置において、
前記ユーザ操作情報が前記表示されているW e b ページのスクロールの停止操作であることを特徴とするサーバ装置。
- [請求項5] 請求項 4 に記載のサーバ装置において、
前記挿入手段は、前記スクロールの停止操作によりスクロールが停止された時にW e b ページ上に表示されている情報に関連する前記挿入情報を挿入させることを特徴とするサーバ装置。
- [請求項6] 請求項 1 乃至 5 の何れか 1 項に記載のサーバ装置において、
複数の前記挿入情報を記憶する記憶手段を更に備え、各前記挿入情

報には前記W e b ページ上に表示する表示順番が付与されており、

前記挿入手段は、前記各挿入情報に付与された表示順番に基づいて、前記各挿入情報を順次挿入させることを特徴とするサーバ装置。

[請求項7]

請求項 1 乃至 6 の何れか 1 項に記載のサーバ装置において、

前記条件判定手段により前記条件を満たしていると判定された場合に、前記W e b ページ上に現在表示されている情報のデータ種別を判定するデータ種別判定手段を更に備え、

前記挿入手段は、複数の前記挿入情報の中から、前記判定されたデータ種別に対応する前記挿入情報を選定し、当該選定した挿入情報を挿入させることを特徴とするサーバ装置。

[請求項8]

請求項 1 又は 2 に記載のサーバ装置において、

前記端末装置に表示されているW e b ページ上に表示する動画データを前記端末装置へ送信する第 2 送信手段と、

前記端末装置において再生された前記動画データの再生終了を検出する再生終了検出手段と、

を更に備え、

前記条件判定手段は、前記監視手段により監視されているユーザ操作情報に基づいて、前記再生終了検出手段により前記再生終了が検出されてから所定時間内にユーザ操作があったか否かを判定し、

前記挿入手段は、前記条件判定手段により前記ユーザ操作があったと判定された場合に、前記挿入情報を挿入させることを特徴とするサーバ装置。

[請求項9]

請求項 8 に記載のサーバ装置において、

前記挿入手段は、前記動画データに関連する前記挿入情報を挿入させることを特徴とするサーバ装置。

[請求項10]

端末装置がネットワークを介してアクセス可能なサーバ装置におけるW e b ページ上への情報挿入方法であって、

前記サーバ装置が、前記端末装置へW e b ページを送信するステッ

プと、

前記サーバ装置が、前記端末装置に表示された前記W e b ページに対するユーザ操作情報を監視するステップと、

前記サーバ装置が、前記監視しているユーザ操作情報が所定の条件を満たしているか否かを判定するステップと、

前記サーバ装置が、前記条件を満たしていると判定された場合に、前記端末装置に表示されているW e b ページ上の所定の表示位置に挿入情報を挿入させるステップと、

を含むことを特徴とするW e b ページ上への情報挿入方法。

[請求項11]

端末装置がネットワークを介してアクセス可能なコンピュータを、前記端末装置へW e b ページを送信する送信手段、

前記端末装置に表示された前記W e b ページに対するユーザ操作情報を監視する監視手段、

前記監視しているユーザ操作情報が所定の条件を満たしているか否かを判定する条件判定手段、及び、

前記条件判定手段により前記条件を満たしていると判定された場合に、前記端末装置に表示されているW e b ページ上の所定の表示位置に挿入情報を挿入させる挿入手段として機能させることを特徴とする情報挿入プログラム。

[請求項12]

端末装置がネットワークを介してアクセス可能なコンピュータを、前記端末装置へW e b ページを送信する送信手段、

前記端末装置に表示された前記W e b ページに対するユーザ操作情報を監視する監視手段、

前記監視しているユーザ操作情報が所定の条件を満たしているか否かを判定する条件判定手段、及び、

前記条件判定手段により前記条件を満たしていると判定された場合に、前記端末装置に表示されているW e b ページ上の所定の表示位置に挿入情報を挿入させる挿入手段として機能させる情報挿入プログラ

ムが記録された記録媒体。

- [請求項13] ネットワークを介してサーバ装置にアクセス可能な端末装置であって、
- 前記サーバ装置からW e b ページを取得する第 1 取得手段と、
- 前記サーバ装置から前記W e b ページ上に挿入すべき挿入情報を取得する第 2 取得手段と、
- 前記取得されたW e b ページを表示する表示手段と、
- 前記表示されているW e b ページに対するユーザ操作情報を監視する監視手段と、
- 前記監視しているユーザ操作情報が所定の条件を満たしているか否かを判定する条件判定手段と、
- 前記条件を満たしていると判定された場合に、前記表示されているW e b ページ上の所定の表示位置に前記挿入情報を挿入する挿入手段と、
- を備えることを特徴とする端末装置。

- [請求項14] ネットワークを介してサーバ装置にアクセス可能なコンピュータを、
- 前記サーバ装置からW e b ページを取得する第 1 取得手段、
- 前記サーバ装置から前記W e b ページ上に挿入すべき挿入情報を取得する第 2 取得手段、
- 前記取得されたW e b ページを表示する表示手段、
- 前記表示されているW e b ページに対するユーザ操作情報を監視する監視手段、
- 前記監視しているユーザ操作情報が所定の条件を満たしているか否かを判定する条件判定手段、及び、
- 前記条件を満たしていると判定された場合に、前記表示されているW e b ページ上の所定の表示位置に前記挿入情報を挿入する挿入手段として機能させることを特徴とする端末処理プログラム。

[請求項15] ネットワークを介してサーバ装置にアクセス可能なコンピュータを、

 前記サーバ装置からWebページを取得する第1取得手段、

 前記サーバ装置から前記Webページ上に挿入すべき挿入情報を取得する第2取得手段、

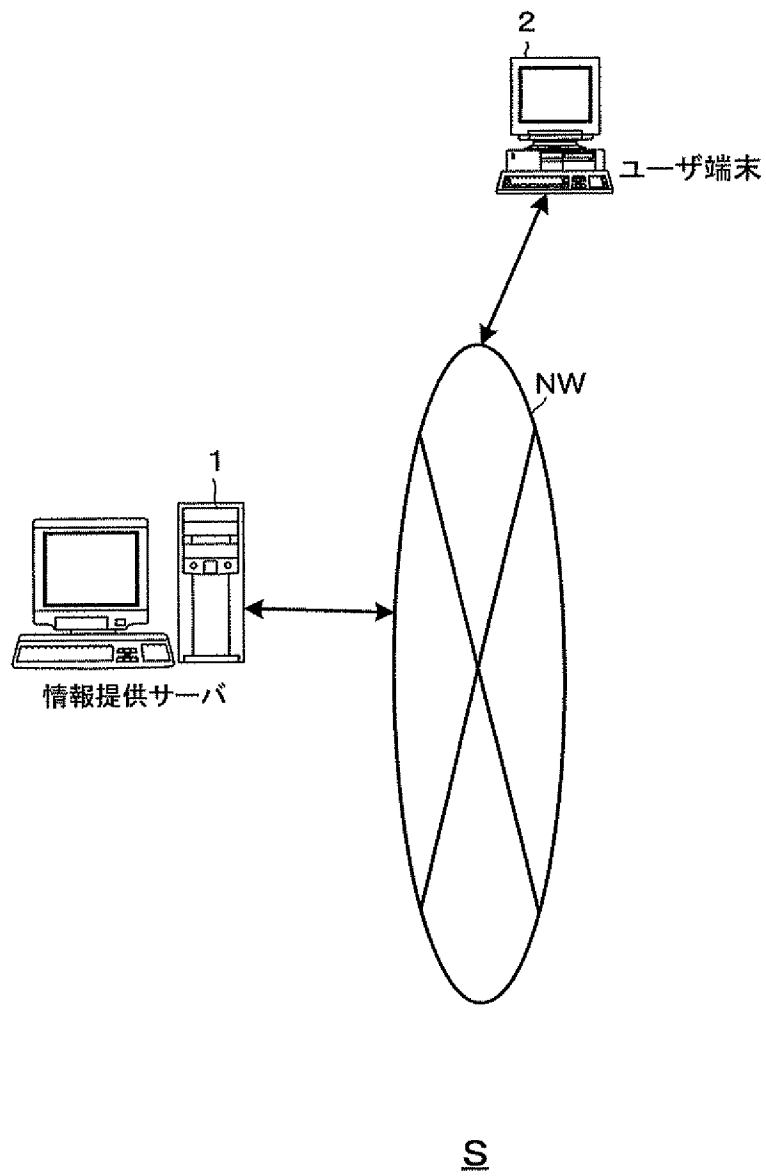
 前記取得されたWebページを表示する表示手段、

 前記表示されているWebページに対するユーザ操作情報を監視する監視手段、

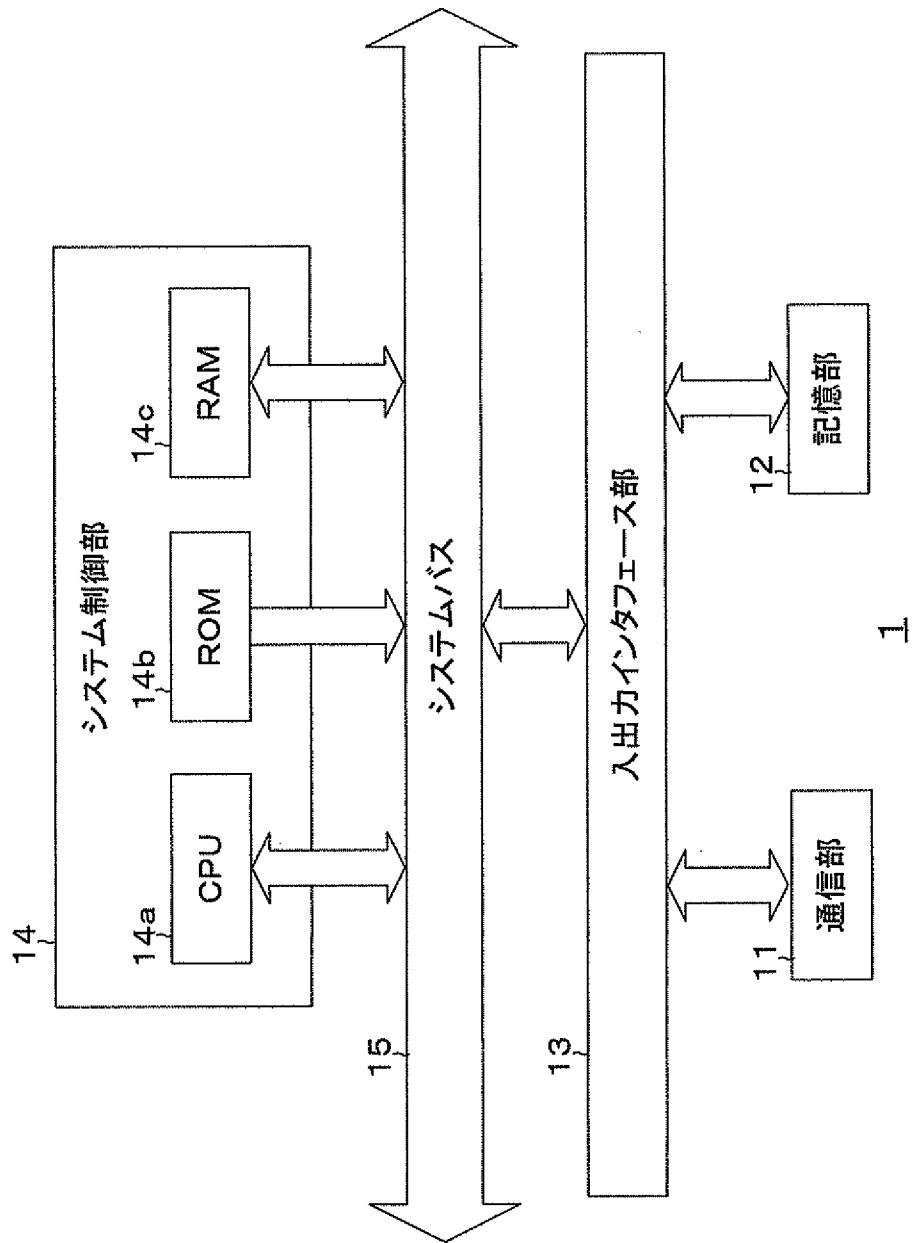
 前記監視しているユーザ操作情報が所定の条件を満たしているか否かを判定する条件判定手段、及び、

 前記条件を満たしていると判定された場合に、前記表示されているWebページ上の所定の表示位置に前記挿入情報を挿入する挿入手段として機能させる端末処理プログラムが記録された記録媒体。

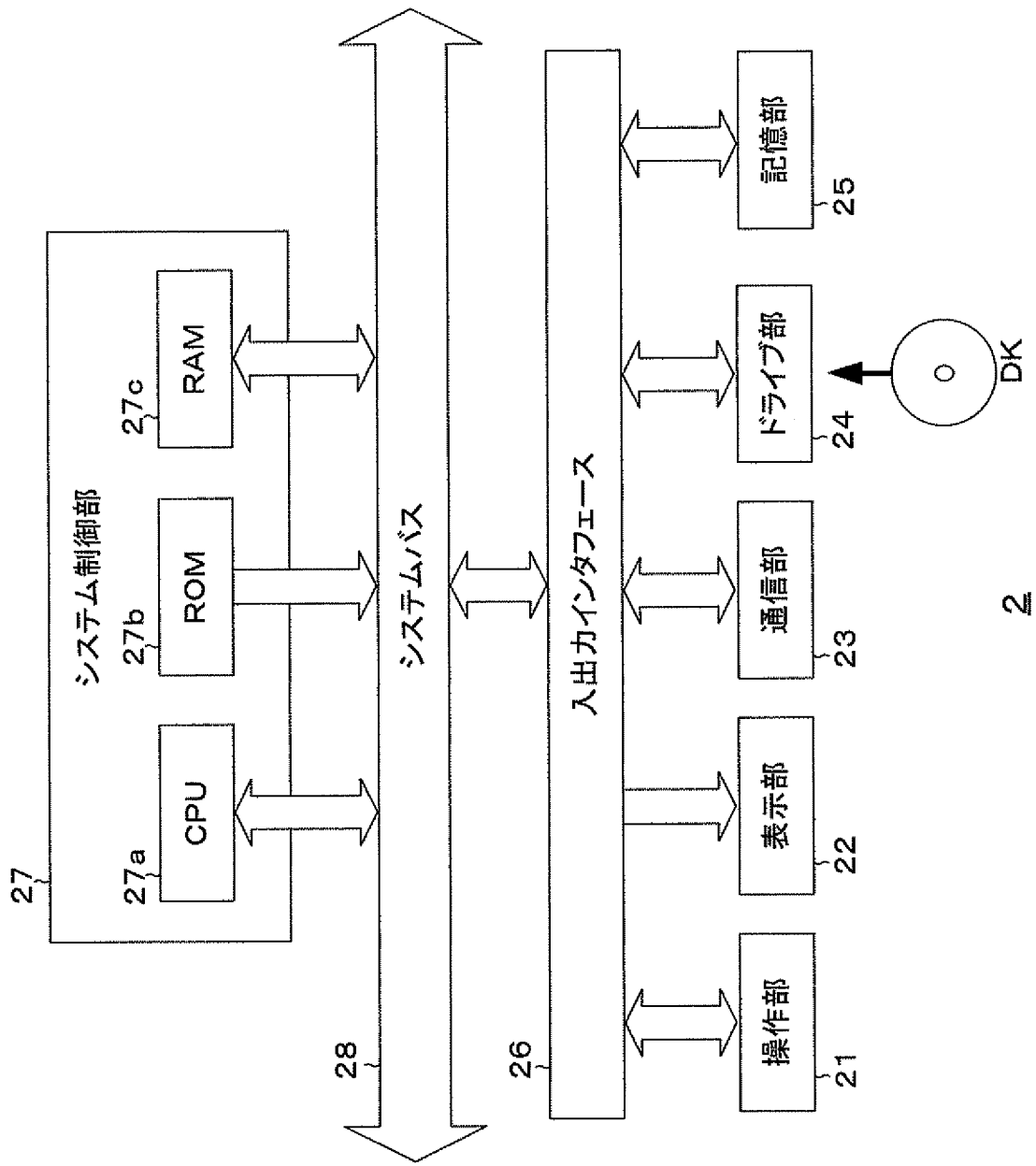
[図1]



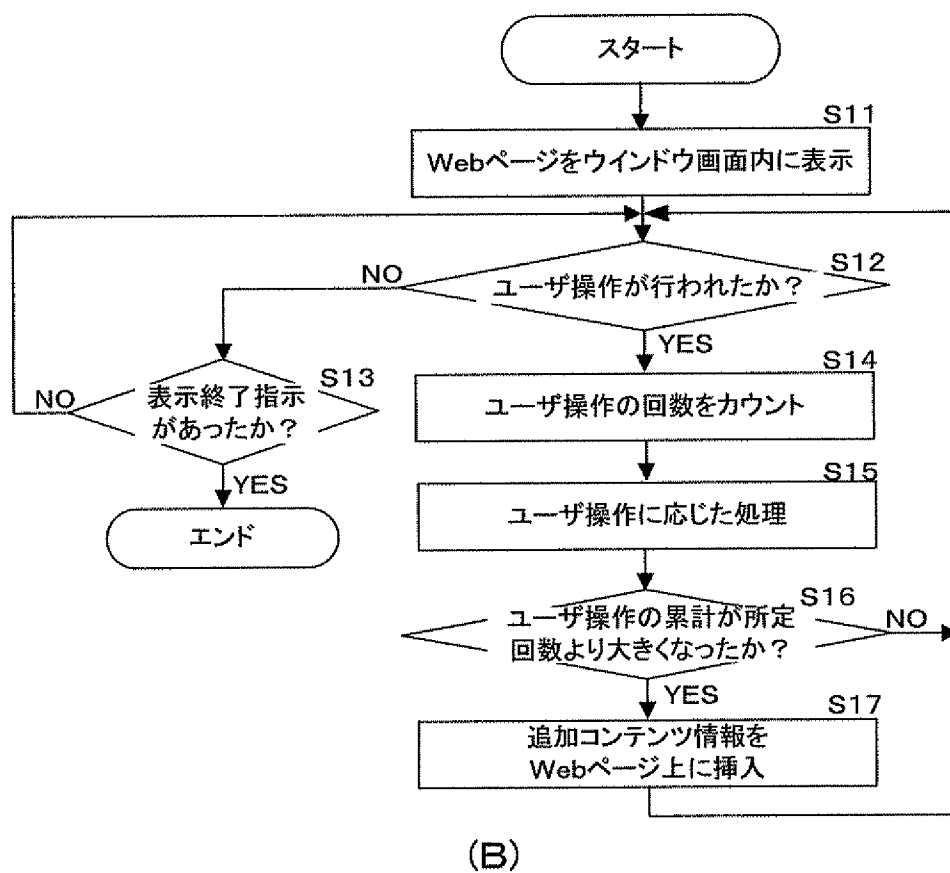
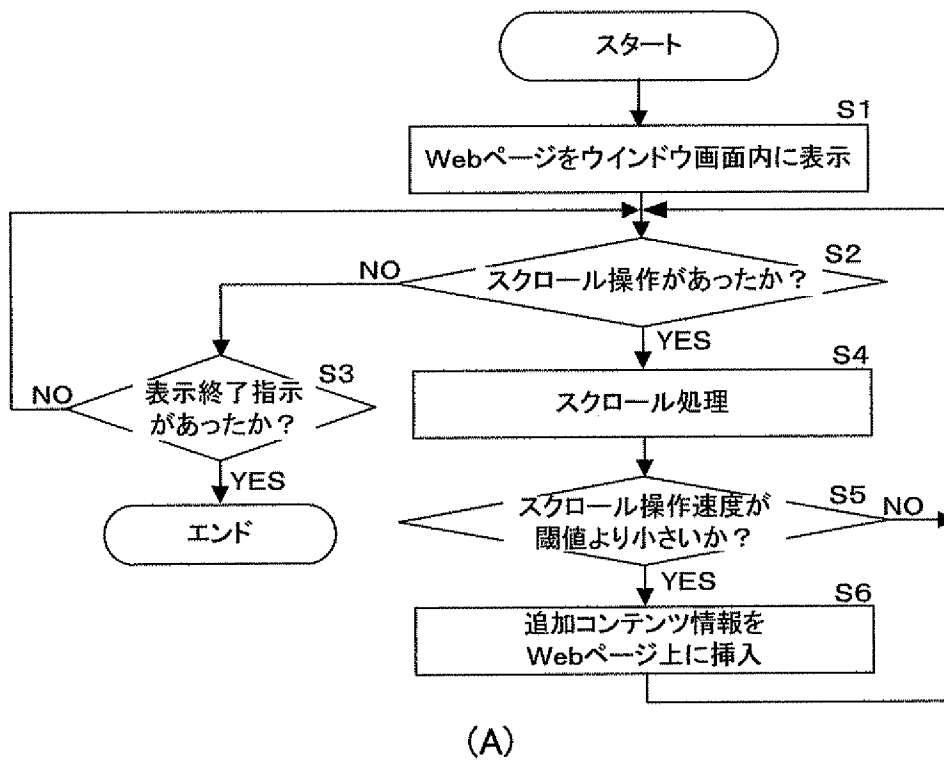
[図2]



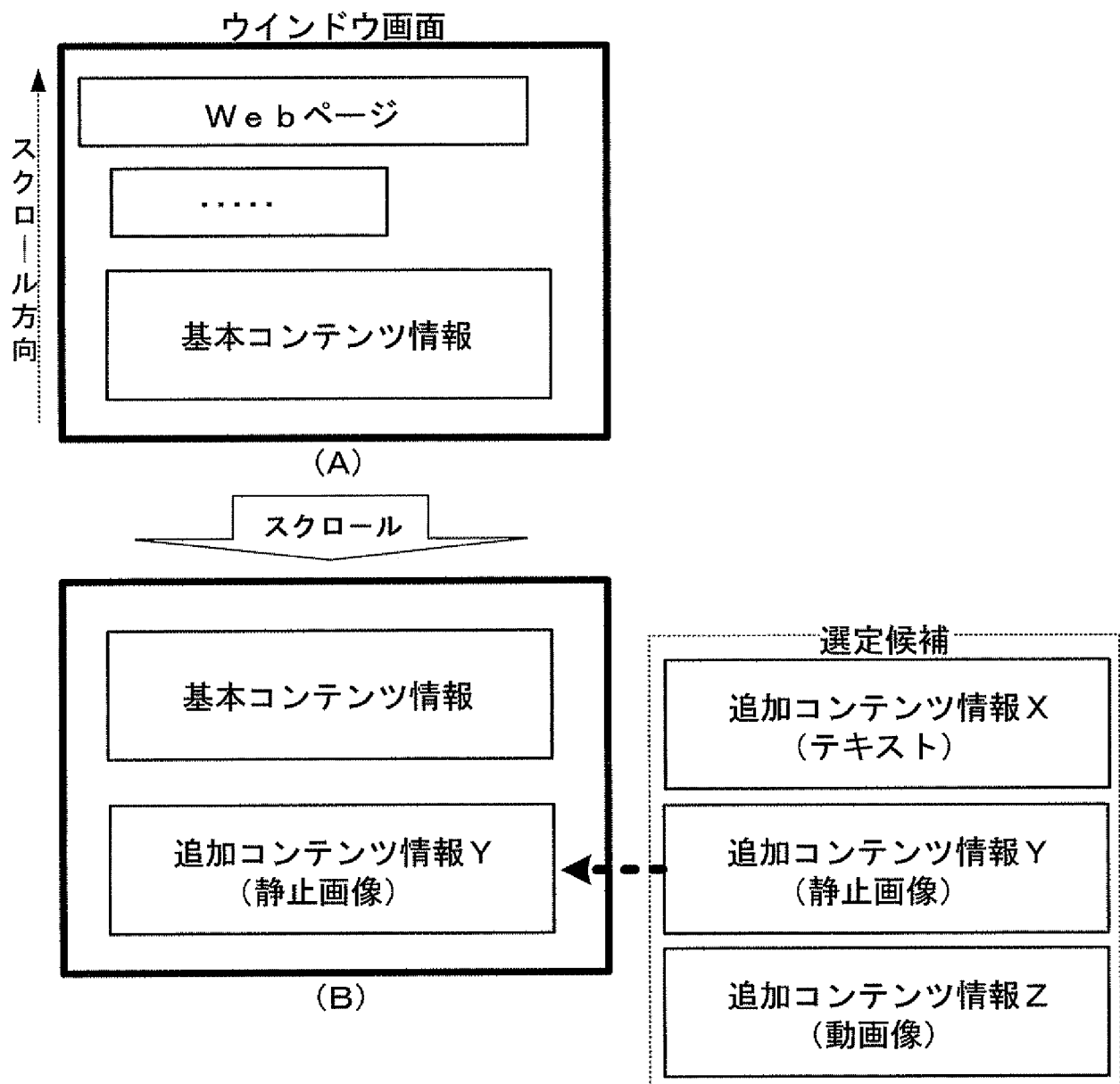
[図3]



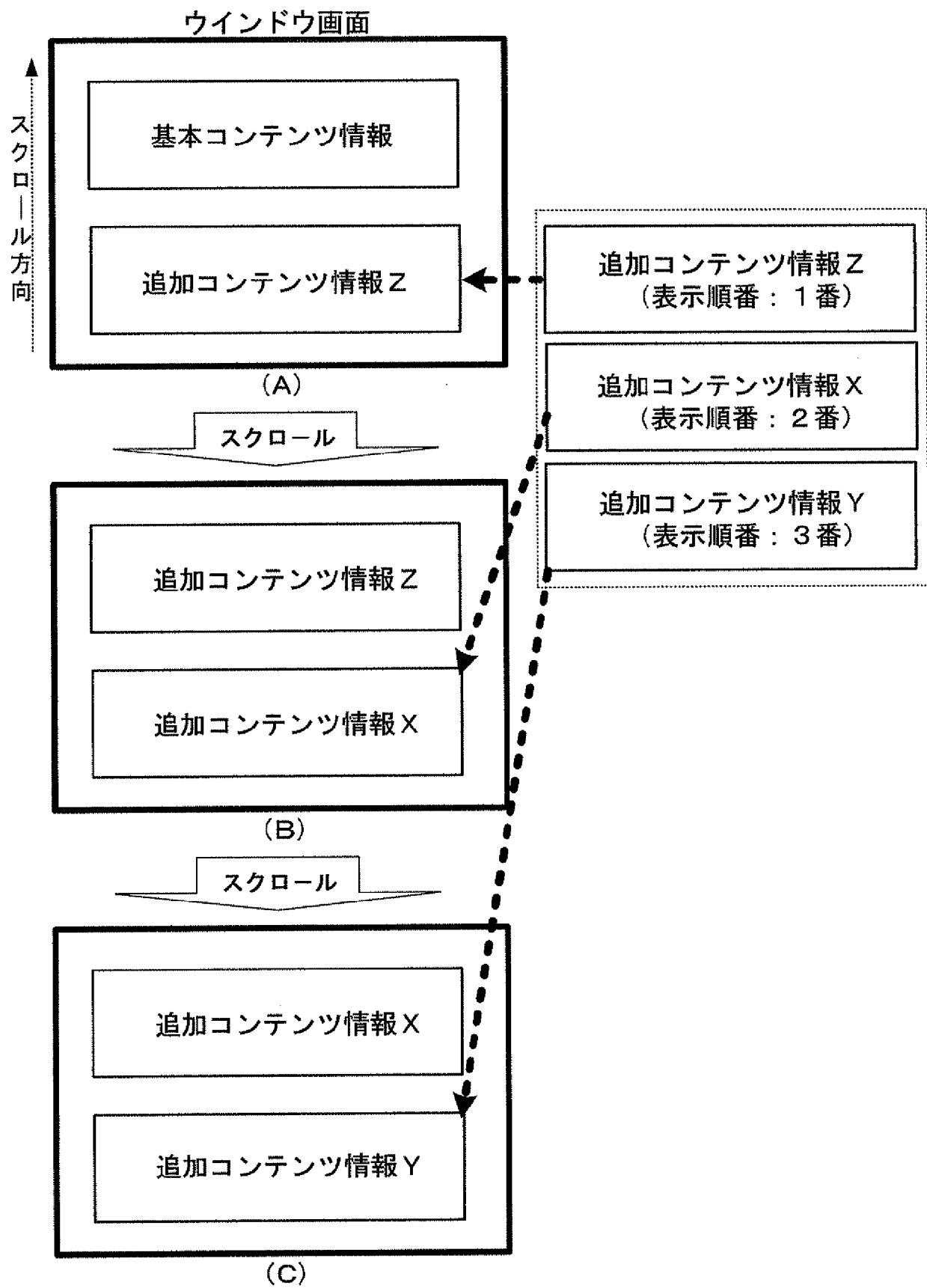
[図4]



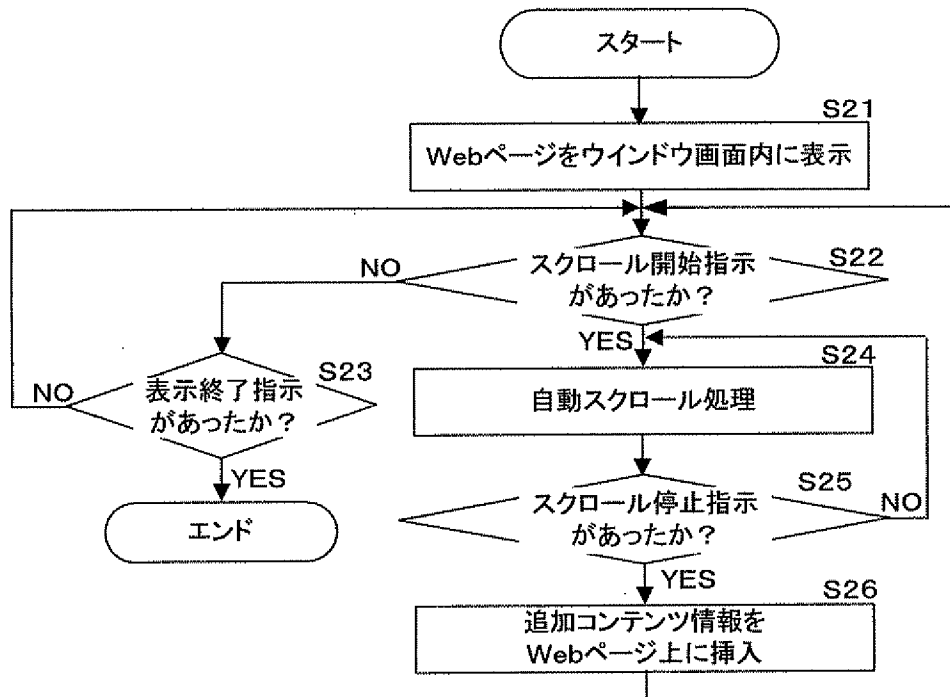
[図5]



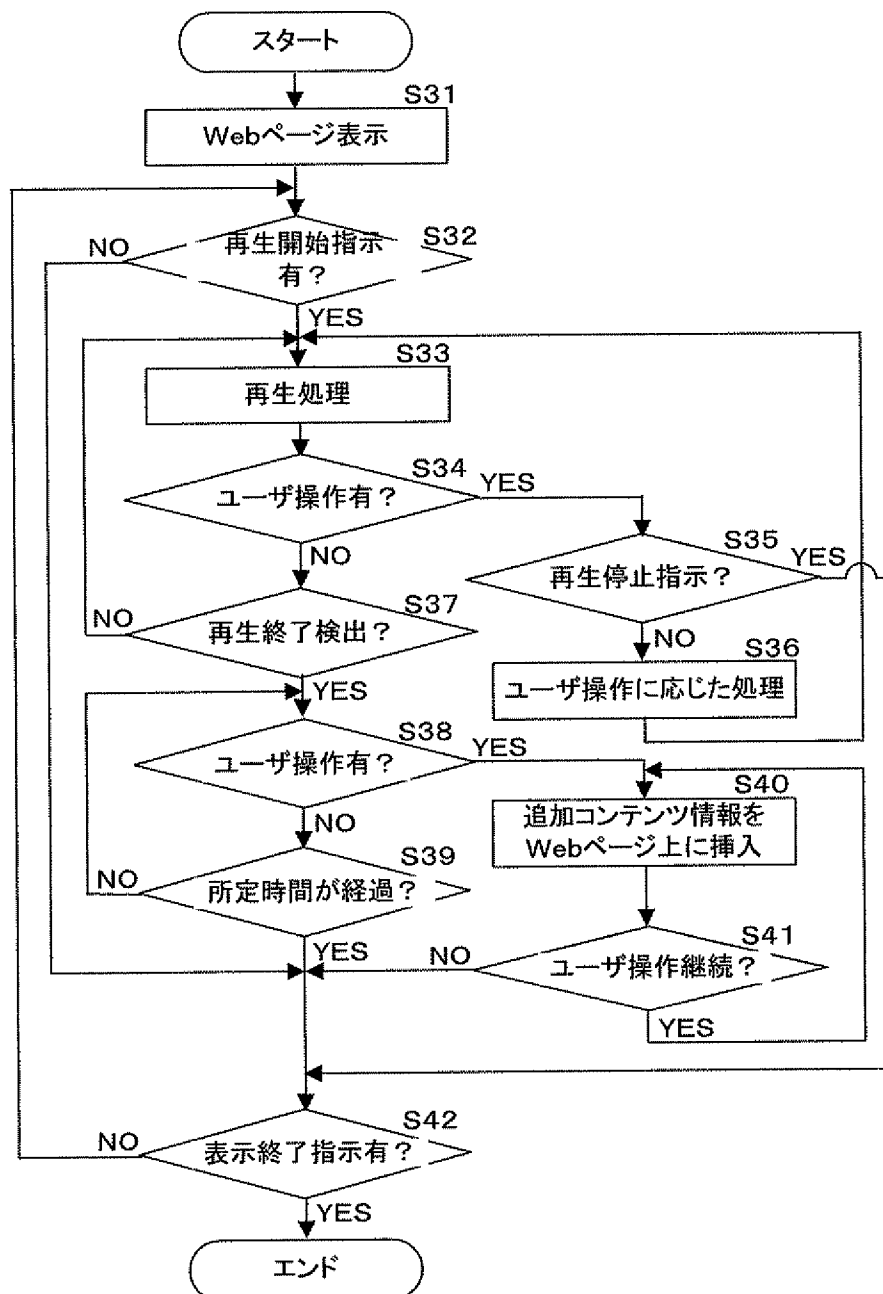
[図6]



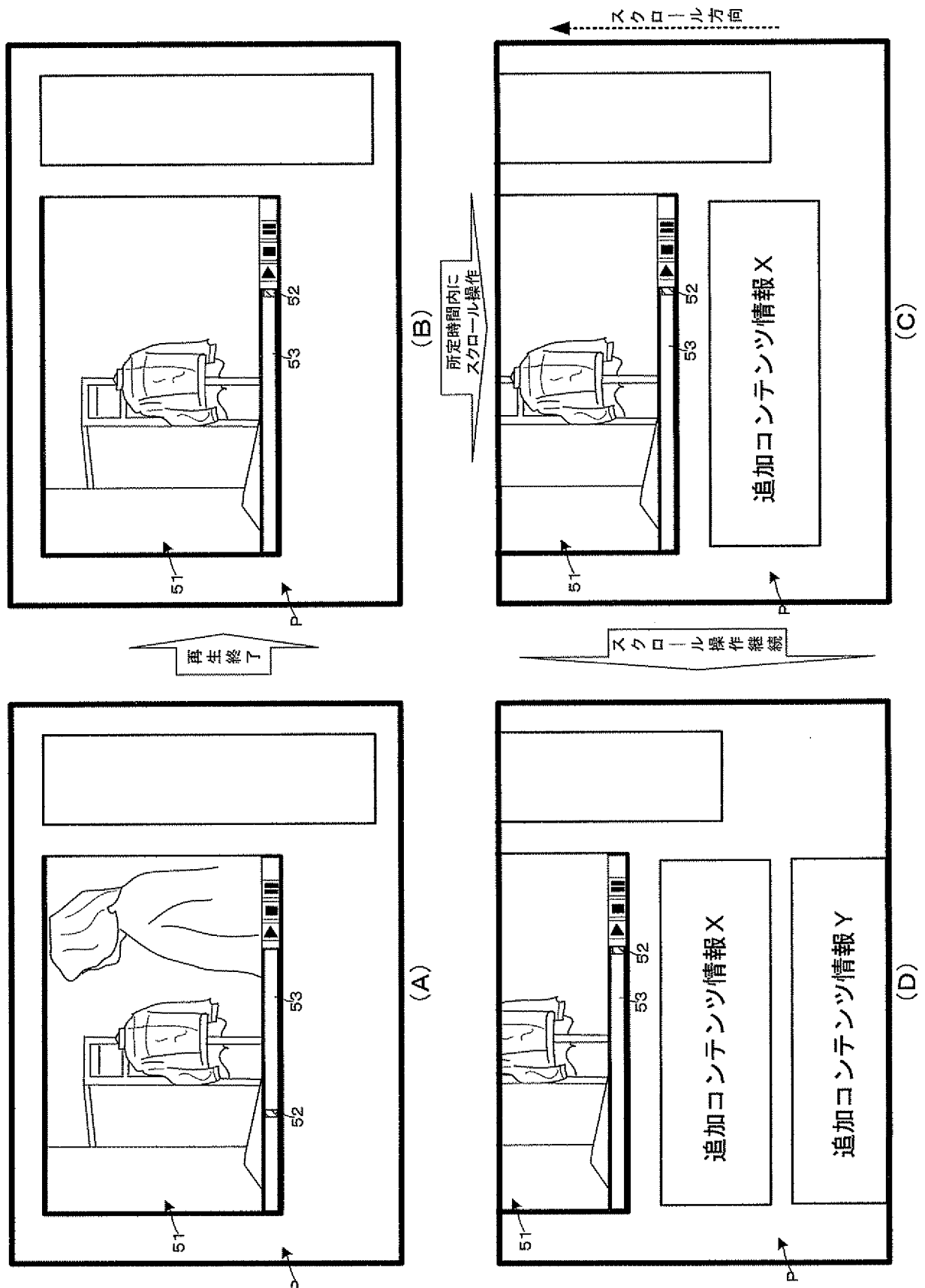
[図7]



[図8]



[図9]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2010/070600

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

G06F3/048 (2006.01) i, G06F13/00 (2006.01) i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

G06F3/048, G06F13/00

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2011
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2011	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2011

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X Y	JP 2007-047988 A (Nippon Telegraph And Telephone Corp.), 22 February 2007 (22.02.2007), paragraphs [0048] to [0104], [0109] (Family: none)	1-4, 10-15 5-9
Y	JP 2001-349737 A (Kenwood Corp.), 21 December 2001 (21.12.2001), paragraphs [0017], [0034] to [0037] (Family: none)	5-7
Y	JP 2002-207869 A (Haruyuki AZUMI), 26 July 2002 (26.07.2002), paragraph [0043] (Family: none)	8-9



Further documents are listed in the continuation of Box C.



See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

“A” document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

“E” earlier application or patent but published on or after the international filing date

“L” document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

“O” document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

“P” document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

“T” later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

“X” document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

“Y” document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

“&” document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
16 February, 2011 (16.02.11)

Date of mailing of the international search report
01 March, 2011 (01.03.11)

Name and mailing address of the ISA/
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (I P C))

Int.Cl. G06F3/048(2006.01)i, G06F13/00(2006.01)i

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (I P C))

Int.Cl. G06F3/048, G06F13/00

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1 9 2 2 - 1 9 9 6 年
日本国公開実用新案公報	1 9 7 1 - 2 0 1 1 年
日本国実用新案登録公報	1 9 9 6 - 2 0 1 1 年
日本国登録実用新案公報	1 9 9 4 - 2 0 1 1 年

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
X Y	JP 2007-047988 A (日本電信電話株式会社) 2007.02.22, 段落【0048】-【0104】,【0109】(ファミリーなし)	1-4, 10-15 5-9
Y	JP 2001-349737 A (株式会社ケンウッド) 2001.12.21, 段落【0017】,【0034】-【0037】(ファミリーなし)	5-7
Y	JP 2002-207869 A (安住 晴行) 2002.07.26, 段落【0043】(ファミリーなし)	8-9

C欄の続きにも文献が列挙されている。

パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)
「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

1 6 . 0 2 . 2 0 1 1

国際調査報告の発送日

0 1 . 0 3 . 2 0 1 1

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (I S A / J P)
郵便番号 1 0 0 - 8 9 1 5
東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

円子 英紀

5 E

3 9 7 9

電話番号 0 3 - 3 5 8 1 - 1 1 0 1 内線 3 5 2 1